

2016年度

関西学院大学 ボランティア活動支援センター  
ヒューマン・サービス支援室

Volunteer Activity Office "Human Service" Support Office



2016年度 関西学院大学ボランティア活動支援センター ヒューマン・サービス支援室 活動報告書

関西学院大学 ボランティア活動支援センター

2016 年度

関西学院大学ボランティア活動支援センター

# ヒューマン・サービス支援室 活動報告書

関西学院大学 ヒューマン・サービス支援室

# 目 次

## ■ はじめに

ボランティア活動支援センター長 挨拶 .....	2
伊藤 正一	
ヒューマン・サービス支援室長 挨拶 .....	3
関 嘉寛	
ボランティアコーディネーター 挨拶 .....	4
成安 有希	
2016 年度学生コーディネーター代表 挨拶 .....	5
後藤 実紗子	

## ■ ヒューマン・サービス支援室

1. ヒューマン・サービス支援室とは .....	8
学内における位置づけ	
2016 年度の取り組み	
2017 年度の計画	
2. ボランティアコーディネート .....	11
支援室の利用状況	
外部団体からの情報提供数	
来年度以降の対応	
3. 災害支援活動 .....	14
平成 28 年熊本地震における支援決定の経緯	
災害支援活動スケジュール	
熊本および大分における地震に対する募金活動	
第 1 回 熊本地震現地ボランティア活動	
第 2 回 熊本地震現地ボランティア活動	
被災地復興応援活動「くまもん・うまいもんフェア」	
熊本地震現地ボランティア報告会「とりま聞こか、そして行こか !!」	
第 3 回 熊本地震現地ボランティア活動	
第 3 回 熊本現地ボランティア報告会～熊本地震はまだ終わっていない～	
第 4 回 熊本地震現地ボランティア活動	
2016 年度 熊本地震現地ボランティア参加者数	
公益財団法人 熊本 YMCA より 挨拶	
熊本地震現地ボランティア参加者感想	
熊本地震現地ボランティア参加者アンケート	

4. ヒューマン・サービス支援室開設記念イベント	25
開催趣旨・プログラム	
シンポジウム1 「これまでの関学におけるボランティア」	
シンポジウム2 「これからの支援室と関学におけるボランティア」	

## ■ 学生コーディネーター

1. 学生コーディネーター（学生CO）とは	40
ヒューマン・サービス支援室における学生COの位置づけ	
年間活動スケジュール	
2016年度の活動方針	
2. 学生コーディネーターの活動	43
仮センター	
ボランティアEXPO	
出張ボランティアセンター	
ボランティアツアー	
ボランティアweek	
3. 学生コーディネーター研修会	46
趣旨・プログラム内容	
受講した感想	
4. 来年度に向けて	48
2017年度学生コーディネーター代表挨拶	
窪田 風子	

## ■ 記録事項

資料集	50
ボランティア活動支援センター規程	55
ヒューマン・サービス支援室規程	56
ボランティア活動支援センター名簿	57
ヒューマン・サービス支援室名簿	57
2016年度 学生コーディネーター名簿	57



はじめに



ボランティア活動支援センター長

**伊藤 正一**

---

関西学院においては、古くから災害への救援・支援活動を行ってきたという伝統があります。阪神・淡路大震災を契機として、関西学院大学の学生、教職員のボランティア組織としてヒューマンサービスセンターが発足し、以来20年間にわたり活動してきました。また、様々な学生ボランティア活動団体も、ボランティア活動を積み上げてきました。

ボランティア活動支援センターを設立することによって、これまでなかったボランティア活動そのものに対する相談窓口の提供が可能になり、関西学院大学のボランティア活動を一元化し、大学の主導・支援のもとに行うことができるようになりました。さらに、学内の様々なボランティア活動団体の相互の協力・連携ができるようになりました。

ボランティア活動支援センターの事業を推進するために、同支援センター内にヒューマン・サービス支援室を置くことになりました。ヒューマン・サービスという名前は、上記のヒューマンサービスセンターに由来しています。したがって、ヒューマン・サービス支援室は、ヒューマンサービスセンターの実績を受け継ぎ、学生などによるボランティア活動を支援し促進する場所です。その業務は、ボランティア活動への支援・助言、ボランティア活動に関する情報収集と提供、ボランティア活動への啓発、ボランティア活動に関する評価及びそれに伴う公表、ボランティア活動協議会の開催、その他からなっています。

近年、地震、台風、大雨など様々な自然災害が発生していますが、政府などの支援だけでなく、ボランティア活動による様々なレベル・内容の支援がますます必要とされてきています。このような状況下で、ヒューマン・サービス支援室の役割が一段と重要となってきています。2016年春に発生した熊本地震では、多くの人々が被災されました。その支援のために、本学ヒューマン・サービス支援室では、4回にわたり延べ約100名の学生を現地に送り出し、避難所や仮設団地において様々な支援活動を実施しました。

関西学院大学ボランティア活動支援センターヒューマン・サービス支援室は、今後も皆様方とのご協力・連携をより深め、社会に貢献していきたいと考えています。

ヒューマン・サービス支援室・室長

## 関 嘉寛 (社会学部教授)

私たち関西学院大学ボランティア活動支援センターヒューマン・サービス支援室は設立からようやく1年を迎えました。この1年間、多くの方々のご支援やご助力のおかげで、関西学院大学らしいボランティアセンターを作るための土台作りをすることができました。お一人お一人にお礼を申し上げるべきところですが、紙幅の関係もあり、この報告書をもって、お礼とさせていただきたいと思えます。

ヒューマン・サービス支援室は、関西学院大学内におけるボランティアセンターとして2016年4月に設立されました。スタッフは、室長1名・副室長3名(以上教員)、学長室職員1名、常勤ボランティアコーディネーター1名、事務補佐1名の陣容でスタートしました。場所は、西宮上ヶ原キャンパス正門を歩いて左手にある守衛室の裏手、どちらかという学生たちの動線からは離れたところにあります。

少々地味なスタートでした。当初の予定では、2016年10月頃に本格的にスタートするつもりでした。常勤ボランティアコーディネーターの採用もぎりぎりになり、組織運営・構成についても骨組みだけでしたので、4月から半年かけて体制を固めたり、コーディネーターの役割を明確にしていったりしようと思っていました。その中で、ヒューマン・サービス支援室の学内における知名度も徐々に上げていこうと考えていました。

しかし、2016年4月14日・16日に熊本・大分で大きな地震が起きてから、組織運営の整備と同時に熊本・大分に対するボランティアを中心とした活動を組織化する必要がありました。それぞれが大きな課題でした。

組織運営においては、阪神・淡路大震災以降20年の実績を持つヒューマンサービスセンターのコーディネーター部門を学生コーディネーター(学生CO)として試行錯誤しながら連携を深めていきました。コミュニケーションの課題、活動のモチベーションの問題など様々な問題点が明らかになりました。

また、熊本・大分での地震においては、学内での募金活動のとりまとめを皮切りに、現地でのボランティア活動を組織化しました。災害救援については経験が豊富な常勤コーディネーターではありましたが、今までにないかたちでの参加者募集や活動の実施でしたので、手探りで進めざるを得ませんでした。その中で、多くの方々との出会いがあり、活動が広がっていきました。

あらためてこの報告書は、私たち関西学院大学ボランティア活動支援センターヒューマン・サービス支援室の1年間の悪戦苦闘の記録であると同時に、ご支援、ご助力、ご指導いただいた方々への感謝の印でもあります。ご一読いただき、もっとうすべきだというコメントやご意見をいただければ幸いです。

## 成安 有希

ボランティア活動支援センター・ヒューマン・サービス支援室が開設して1年が経ちました。立ち上げから組織体制の確立、関係各所との関係作り、熊本地震への対応等、慌ただしい1年となりました。私自身、新卒ということもあり、組織の立ち上げに際して自分がどのような役割を果たせるのか不安でもありました。立ち上げて2週間後には熊本地震が発生し、組織体制を確立するどころか、組織全体を把握できないまま実際に動きださなければならなかったのが現実でした。

熊本地震に対してはまず、学生の声に耳を傾けることから始め、学内での募金活動、現地でのボランティア活動と、活動を発展させていきました。2016年度は4度、のべ約100名の学生と現地で活動することが出来ました。現地では熊本YMCAはじめ、関係各所の方々が受け入れてくださり、現地での継続的な活動につながりました。初年度ということもあり、関係各所の方々には大変負担をかけることとなりました。様々なご支援をいただき、誠にありがとうございました。

日頃の活動としましては、学生コーディネーターとの関係づくりや従来の体制の見直し、組織のルール作りなど、主に基盤を固めるための活動をしました。熊本地震への対応や、一般学生の対応、外部団体との関係作りに加えてのことで、正直最初はなかなかうまくいかないこともありました。しかし、学生コーディネーターと「一緒にがんばる」ことを心がけ、少しずつではありますが、関係が築けてきたのではないかと思います。

2年目を迎える2017年度は、学内外ともにさらにヒューマン・サービス支援室を知っていただくために、活動を広げていきたいと思っています。熊本での現地ボランティア活動も継続することが決定し、2017年度も4度の現地ボランティアを予定しています。また、学内でのボランティア啓発活動として、学生コーディネーターとともに様々なプロジェクトを企画・実施していく予定です。私自身としましても、コーディネーション力を高めながら、学生コーディネーターと一緒に、より魅力的なヒューマン・サービス支援室をつくっていかうと思っています。2016年度よりもさらにパワーアップした支援室を皆さんにお見せできるよう頑張っていきます。2017年度もどうぞ宜しくお願いいたします。

2016年度学生コーディネーター代表

**後藤 実紗子** 文学部3年(学年は当時)

私が携わった2016年という年は、20年以上つづいてきた「関西学院ヒューマンサービスセンター」の終わりの年であり、「関西学院大学ヒューマン・サービス支援室」開設の年であるということで、重要な年に活動させていただけたと思います。今までと変わりゆくこと、変わらないことを考え続けた1年でありました。

日常でのボランティア情報の紹介を行うボランティアコーディネートや、関学生へのボランティア普及を目的としたイベント企画を行うなどの通常での活動と、今までのヒューマンサービスセンターの体制から支援室という新体制への移行のための先生方やコーディネーターの方との話し合い、これら全く異なる2つのことを並行して行うことは非常に難しいことではありましたが、その反面やりがいを感じて活動でもありました。

また、学生コーディネーターの運営方法の大幅な見直しも行いました。今まで運営は幹部学年である3回生のみで行っていましたが、今までの役職を部門へと変え、運営の中心は3回生ながらも、他学年も参加する縦割り制度へと変更しました。当初は部門での運営が上手くいかないこともありましたが、部門内で学年を超えた交流を行うことで、運営がスムーズになるだけでなく、自分たち一人ひとりが活動について考えることができ、イベント企画などの通常でのミーティングの場で、積極的に発言する学生が増えたように思います。もちろん、まだまだ改善点も多いですので、その時の代に合った変更や改善を行い、より良い運営をしていってほしいと思います。

活動を続ける中では「積極性」というものが非常に大切であり、私自身意識して行動をしてきましたが、行動しきれなかった場面もありました。自分の中で不安や迷い、また自分の弱さを感じることもあったのだと思います。そんなときに大切にしていたことは「まずはやってみる」。そして、やってみながら、「何のために今の活動を行っているのか」一度原点に立ち返って考えることが大切だと思います。今後も学生一人ひとりの成長とボランティア活動の更なる発展を願い、様々な形でボランティア活動へ参加させていただこうと思います。



# ヒューマン・サービス支援室



## 1. ヒューマン・サービス支援室とは

### 学内における位置づけ

関西学院大学ボランティア活動支援センターヒューマン・サービス支援室は、その名が示すとおり、ボランティア活動を支援する窓口として設置されました。近年、大学でも社会における実体験を学習の一部に取り込む傾向がある中で、多くの大学でもボランティア活動を支援するようになってきました。支援の組織的な裏づけとして、大学にもボランティアセンターが置かれるようになり、2011年には約12%（約150大学／短大）に設置されています。

ヒューマン・サービス支援室の前史的な存在である関西学院ヒューマンサービスセンターは1995年の設立ですので、関西学院大学におけるボランティアセンターの歴史は古いといえます。そこでは、教職員と学生が協力して、さまざまなボランティアコーディネートがおこなわれていました。

しかし、残念ながら、ヒューマンサービスセンターは組織的な裏づけが曖昧な組織でした。そのため、関西学院大学内におけるボランティアの組織的な支援という点において課題を抱えていました。

2016年4月にヒューマンサービスセンターの実績を引き継ぎ、大学内で組織的位置づけがある程度明確にされたかたちでボランティア活動支援センターヒューマン・サービス支援室が設立されました。したがって、ヒューマン・サービス支援室は、それまでの関西学院大学内でのボランティアや情報を組織として整理し、分かりやすいかたちで発信することが重要な役割と考えられています。

そこで、私たちはまず、ヒューマン・サービス支援室の存在を学内各部署に伝え、そこに点在しているボランティアに関わる情報の所在を確認することを進めています。決して、学内におけるボランティア活動の情報を全て集約することを目的としていません。それは関西学院大学が大切にしている自由な意志に基づく活動をコントロールすることになりかねないからです。あくまでもそれぞれの自由な意志に基づく活動を尊重し、それらの活動が課題を抱えたり、あるいはさらなる情報を必要としているときに頼りになる組織を目指しています。

また東日本大震災での大学の組織的な支援を再考し、発展させることもボランティア活動支援センターに課せられた使命です。関西学院大学は古くは関東大震災時もボランティアを現地で行っていました。そういう意味で、災害救援とは縁の深い大学であるといえます。しかし、今まで災害ボランティア活動を組織化する仕組みは十分には整備されてきませんでした。その整備を担うのもこのセンター・支援室の役割です。

## 2016 年度の取り組み

今年度の主な取り組みとして、以下の3つが挙げられます。

- ボランティア情報の集約と整理
- 学生コーディネーターとの連携
- 熊本地震被災地支援活動

### <ボランティア情報の集約と整理>

設立後最初の取り組みとして、学内ボランティア団体の情報を集約することから始めました。本校のボランティアの歴史は古く、また阪神・淡路大震災や東日本大震災などの災害もきっかけとなり、学内では様々なボランティア団体が誕生し、活動していましたが、その情報を集約しているところがありませんでした。そこで、ヒューマン・サービス支援室に関わる教職員や学生から集めた情報を頼りにリサーチを進めていきました。

本来であれば、学内ボランティア団体の情報については初年度のうちにある程度集約するはずでしたが、設立後2週間で熊本地震が発生し、情報集約から熊本地震への対応へと切り替えたため、なかなか進まずに初年度を終えることになりました。

### <学生コーディネーターとの連携>

ヒューマンサービスセンターのコーディネート部門に所属していた学生が、ヒューマン・サービス支援室の学生コーディネーターとなり、学生の多くが新しい組織や今後の活動について不安を抱いていました。専従コーディネーターという、学生らにとっては初めて関わる立場の教職員にとまどいを感じていたのではないかと思います。そんな学生たちと一緒に活動するにあたり、まずはコミュニケーションを取りながら関係作りをしていきました。新入生歓迎会や学生が企画したイベントにも積極的にに関わり、まずは学生1人ひとりを知ることから始め、学生たちの思いを聞き、それをどう実現していくかを一緒に考えていきました。なかなかすぐにはいきませんでした。話をするうちにお互いに意思疎通をし、協働でイベントを実施することができました。

### <熊本地震被災地支援活動>

設立して2週間後に起きた熊本地震に対する対応が、今年度最も大きな部分を占めた活動となりました。まずは学内での街頭募金活動を実施し、学生や教職員に対して支援を求めました。その後、地震発生から3ヵ月後の7月から現地でのボランティア活動を開始しました。避難所や仮設住宅での被災者の方々との交流をメインに足湯や茶話会を行うほか、参加学生自身が企画した活動を実施するなど、参加した学生らが活動を通して学びを得られるようなプログラムを実施しました。

## 2017 年度の計画

### <2017年度の活動概要>

センター設置、支援室開設2年目になる2017年度も関西学院大学ボランティア活動支援センターヒューマン・サービス支援室の設置目的である関西学院大学内におけるボランティア活動を広げ、深めていくためにボランティアコーディネートを充実させていきます。また、2016年4月に発生した熊本・大分での地震による被災地支援活動も継続していきます。

	継 続	新 規
ボランティア コーディネート	情報集約・発信の仕組みづくり	学生コーディネーターへの支援の充実
熊本地震被災地 支援活動	仮設住宅での支援活動・学内発信	熊本・大分地震に関するイベントの開催

### <ボランティアコーディネートの充実>

#### ・継続事業

ヒューマン・サービス支援室における学生向けのボランティアコーディネート事業を継続しておこないます。ボランティアコーディネートでは、専従コーディネーターと学生コーディネーターが協力し、来室する学生のニーズのくみ取りやフォローアップなどを通じ、多くの学生にボランティアの機会を提供するとともに、活動を通じてより深い学びを得られる手助けをしていきます。また、講演会などボランティアを集中的に告知するイベントも企画します。

#### ・新規事業

ヒューマンサービスセンターから引き継いだ学生コーディネーターがより自分たちの想いを実現できるような支援・協力をあらたにしていきます。特に、学生コーディネーターが自分たちで企画するイベントを充実させていきます。

### <熊本地震被災地支援活動の充実>

#### ・継続事業

2016年度に4回おこなった現地での支援事業を継続しておこないます。主に、熊本県益城町の仮設住宅の支援を継続して公募によって集めた学生と一緒におこないます。

#### ・新規事業

関西学院大学における熊本地震への関心を作り上げるために、展示や広報などの新しいイベントをおこないます。その際、現地ボランティアに参加した学生なども加わり、広がりをつくり出していきます。

## 2. ボランティアコーディネート

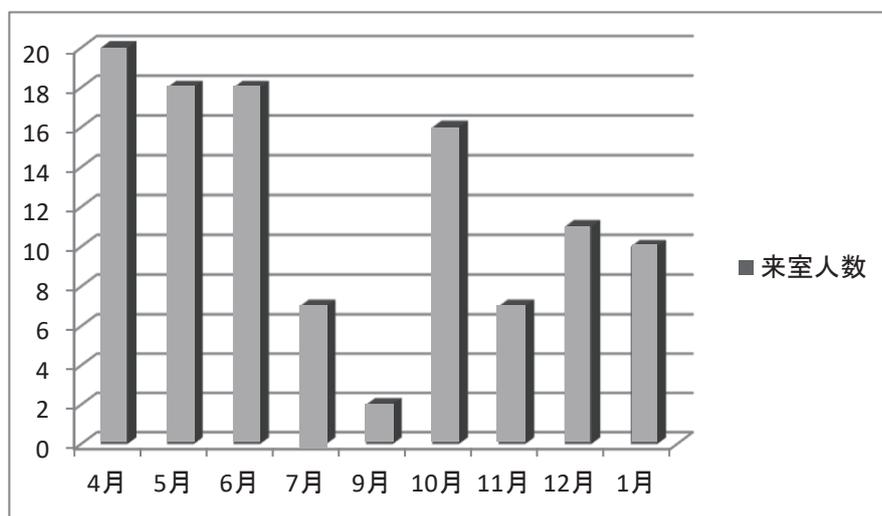
### 支援室の利用状況

#### ・学部別来室者（のべ）数

全学部計	神	文	社会	法	経済	商	理工	総合 政策	人間 福祉	教育	国際	不明
109	2	27	29	17	8	5	2	0	10	2	6	1

全学年計	1	2	3	4	不明
109	49	28	26	3	3

#### ・月別来室者数



## 外部団体からの情報提供

支援室では、提供していただいたボランティア情報と提供数を 14 種類に分けて紹介しています。

福祉	高齢者、障害者、さまざまな生活課題を抱える人などへの支援	23
子ども・青少年	子どもたち、中高生などに関わる活動	47
医療	病院でのボランティア活動、心に病を持つ人への支援、相談援助活動	4
国際	海外協力、日本にいる外国人への支援、難民支援、海外スタディーツアーなど	22
環境	自然保護、里山保全、リサイクル活動など	3
教育関係	学校教育や社会教育・生涯学習活動への協力	17
芸術・文化	美術館・博物館での活動、地域文化の保全・育成	3
スポーツ	スポーツ活動への支援、障害者スポーツへの参加・協力など	6
災害支援	防災活動、災害時の救援・支援活動	20
まちづくり	都市計画や公共施設建築などでの市民参加、福祉マップ作りなど	18
人権	DVの被害者女性への支援、知的障害者がある人などの権利擁護	0
助成金	助成金に関する情報	3
講座	ボランティアなどに関する講座・講習会など	45
その他	上記にあてはまらないボランティアの種類	7
合計 (件)		218

提供団体数	131
-------	-----

## 来年度以降の対応

### <今年度の課題>

設立初年度の今年は、まず学生や教職員にヒューマン・サービス支援室について知ってもらうことを目標に、様々な周知をしていきました。HP の開設、SNS の更新、また掲示板を活用し、支援室の役割を発信しました。また、開設記念イベントなど学外の方々を招待したイベントを通しての発信や、チラシでの広報も行いました。これらの広報で少しずつ支援室について知っていただけた一方、支援室が学生の動線からはずれているため、なかなか学生の訪問者が増えず、初年度は大きく課題の残る年となりました。

### <来年度以降の対応>

来年度以降は今年度に引き続き広報活動を続けながら、学生コーディネーターと協働で学内でのイベントを実施し、学生や教職員に知ってもらえる機会を増やしていこうと思います。学生コーディネーターのイベントは、前身団体の時からすでに実施しているイベントも多く、これらのイベントをブラッシュアップさせていながら、より参加者に満足してもらえるようなものを実施していきたいと思っています。参加者の増加や、満足度の上昇により、支援室の機能をより知っていただけると思います。

また、外部団体の情報もこちら側から積極的に掴んでいき、ボランティアセンターとしての機能を充実させていきたいと思っています。こちらも学生コーディネーターと協力しながら、実際に活動に足を運んだり、活動を主催されている方々に直接お会いして話すことで、よりリアルに一般学生に活動について伝えられるようにしていきたいと思っています。

### 3. 災害支援活動

#### 平成28年熊本地震における支援決定の経緯

関西学院大学ボランティア活動支援センターヒューマン・サービス支援室は、設置の当初より自然災害などの緊急支援に対応する決定が大学によってなされたときに、その実施主体として活動することが決められていました。ただ、東日本大震災時に大学としての支援ポリシーが明確ではなかったため、その支援ポリシーを決定することが必要でした。

災害はいつ発生するか分からないので、早急に支援ポリシーを策定する必要はありましたが、組織構成や運営について議論が集中したために、4月のセンター設置・支援室設立当初、支援ポリシーはまだ策定されていませんでした。

ポリシーがないままに、2016年4月14日（前震）および16日（本震）に熊本・大分で大きな地震が発生しました。この状況で、大学としてどのような対応をとるべきかが問われていました。たとえば、東日本大震災では、支援は関西学院大学のメンバーが各自に判断し活動する中で、それに応じるかたちで大学などが支援をおこないました。しかし、今回の地震では大学でセンターおよび支援室を通じて支援を決定する枠組みがすでに決められていたので、大学は組織的に、比較的迅速に対応する必要がありました。

地震直後、被災地では大きな余震が続き、すぐに現地に入ることは難しい状況でしたので、まずできることとして、学内での街頭募金を実施することが大学で決められました。今までならば、学生の学内における募金は原則禁止されていましたが、宗教活動委員会のもとでおこなわれる募金活動に、学生の街頭募金を組織化し、ヒューマン・サービス支援室の専従コーディネーターが統括するという条件の下で、特別に認められました。

その後、余震も落ち着き、現地視察を5月初旬におこなったところ、現地での活動は可能で、すぐにでも必要とされていることが分かりました。そこで、7月の現地での活動を決定しました。

しかし、現地では移動手段および宿泊先を確保することがまだまだ困難でした。その中で、名門大洋フェリーさんが私たちの活動に賛同して下さり、移動手段および宿泊先をコーディネートして下さりました。

また、活動先については、避難所になっている益城町総合体育館での活動が決められました。支援活動においては、相手先との信頼関係構築が重要ですが、総合体育館は関西学院大学内にも関係者が多いYMCAの全国的な応援態勢のもとで熊本YMCAがおこなっていたので、その関係構築も比較的スムーズにおこなわれました。

このような経緯で、関西学院大学ボランティア活動支援センターヒューマン・サービス支援室の下、熊本地震現地ボランティアが開始されました。

## 災害支援活動スケジュール

学生たちの「被災地のために、自分たちに何かできることはないか」という多くの想いを受け、ヒューマン・サービス支援室では災害支援ボランティア活動を行いました。

年月日	活 動	場 所
2016 4/14・16	平成 28 年熊本地震 発生	
4/30～5/2	熊本現地視察	熊本県益城町他
5/16～6/17	熊本・大分における地震に対する学内募金ボランティア活動	上ヶ原・西宮聖和・神戸三田キャンパス
5/20	熊本地震現地報告会	上ヶ原キャンパス
6/14～20	第 1 回熊本地震現地ボランティア募集期間	
7/1～4	第 1 回熊本地震現地ボランティア活動	熊本県益城町
10/13～21	第 2 回熊本地震現地ボランティア募集期間	
8/3～7	第 2 回熊本地震現地ボランティア活動	熊本県益城町
10/13～21	第 3 回熊本地震現地ボランティア募集期間	
10/18～20	熊本地震復興応援「くまもん・うまいもんフェア」	生協祭@上ヶ原キャンパス
10/28	とりま聞こか、そして行こか!! ～熊本地震現地ボランティア報告会～	上ヶ原キャンパス
11/11～14	第 3 回熊本地震現地ボランティア活動	
12/9～16	第 4 回熊本地震現地ボランティア募集期間	熊本県益城町
12/13	熊本地震は終わっていない! ～第 3 回熊本地震現地ボランティア報告会～	上ヶ原キャンパス
12/15	熊本地震は終わっていない! ～第 3 回熊本地震現地ボランティア報告会～	神戸三田キャンパス
2017 2/24～28	第 4 回熊本地震現地ボランティア活動	熊本県益城町

### 熊本および大分における地震に対する募金活動

日 程 2016年5月16日（月）～6月17日（金）計15回

時間帯 12：45～13：20

場 所 関西学院大学

上ヶ原キャンパス、西宮聖和キャンパス、  
神戸三田キャンパス



### 統 計

	総登録者（人）	活動参加人数（人）	募金額（円）
上ヶ原	36	58	26,175
神戸三田	9	23	15,077
西宮聖和	8	19	13,450
合計	53	100	54,702



## 第1回 熊本地震現地ボランティア活動



**日 程** 2016年7月1日(金)～4日(月)  
**参加人数** 学生20名 / 教職員3名  
1回生：4名、2回生：9名、3回生：2名、  
4回生：4名、M2：1名

**活動場所** 益城町総合体育館

**活動内容**

- ・足湯
- ・避難所のお手伝い  
館内のレイアウト変更、清掃、ごみ収集、物資の配布など
- ・子ども遊び  
七夕の飾りつけ、トランプなど



## 第2回 熊本地震現地ボランティア活動



**日 程** 2016年8月3日(水)～7日(日)  
**参加人数** 学生18名 / 教職員3名  
1回生：6名、2回生：4名、3回生：3名、  
4回生：5名

**活動場所** 益城町総合体育館

**活動内容**

- ・足湯  
被災者の方との交流
- ・避難所のお手伝い  
清掃、ごみ収集
- ・プレイパーク(子ども遊び)  
スライムづくり、シャボン玉、バルーンアート、水鉄砲など



## 被災地復興応援活動「くまモン・うまいもんフェア」



日 程 2016年10月18日（火）～20日（木）

場 所 上ヶ原キャンパスプラザ前

内 容

- ・グッズ販売  
「くまモン」がデザインされたグッズやお菓子を販売し、その売上金を活動資金にした。
- ・パネル展示  
現地の様子や現地で行った活動の様子をパネル展示し、現状を伝えた。

関学生協主催「生協祭」にて、第1回、2回熊本地震現地ボランティアに参加した有志学生たちによる、被災地復興応援活動「くまモン・うまいもんフェア」が行われました。参加した有志学生たちは「このフェアを通じて、来場者に熊本地震について思い出してもらい、関心を持ち続けることにつながりたいです」と話しました。

## 熊本地震現地ボランティア報告会「とりま聞こか、そして行こか!!」



日 程 2016年10月28日（金）17:00～18:30

場 所 上ヶ原キャンパスB号館104教室

内 容

- ・熊本の現状
- ・現地での活動
- ・普段の自分とボランティアをしている自分
- ・関西に帰ってきてからの事後活動
- ・座談会
- ・まとめ

熊本地震現地ボランティア活動の第1回、第2回に参加した学生たちによる報告会を実施しました。現地ボランティアを通してボランティアの捉え方が変わった学生たちは「とにかく自分たちの報告を聞いてもらって、この現地ボランティアに参加してもらいたい。もっとボランティアを身近に感じてもらいたい。」という思いで実施しました。

### 第3回 熊本地震現地ボランティア活動



**日 程** 2016年11月11日（金）～14日（月）

**参加人数** 学生38名 / 教職員3名

1回生：15名、2回生：9名、3回生：4名、  
4回生：9名、M1：1名

**活動内容** 熊本県益城町（木山仮設団地、テクノ仮設団地）

- ・茶話会  
足湯、ハンドアロマ
- ・子ども遊び  
バルーンアート、トランプ、バドミントン、ボール遊びなど
- ・だご汁づくり
- ・仮設団地のお手伝い

### 第3回 熊本現地ボランティア報告会 ～熊本地震はまだ終わっていない～



**上ヶ原キャンパス**

**日 時** 12月13日（火） 17：00～18：30

**場 所** B号館102教室

**内 容**

- ・熊本の現状
- ・活動内容
- ・参加した感想
- ・次回予告

**神戸三田キャンパス**

**日 時** 12月15日（木） 12：50～13：20

**場 所** アカデミックcommons オレンジゾーン



上ヶ原、三田でそれぞれ第3回熊本地震現地ボランティア報告会を実施しました。被害の大きい地域を視察し、改めて今回の震災の被害の大きさや、報道が少なくなった今でもまだ関心を持ち続けることの重要性を学びました。

今回は自分たちが感じたことをより正確にリアルに感じてもらいたいと、話す内容や構成など時間をかけて参加学生で話し合いを行いました。三田では動画を作成し、より関心を持ってもらえるような工夫をしました。

## 第4回 熊本地震現地ボランティア活動



**日 程** 2017年2月24日（金）～28日（火）

**参加人数** 学生23名 / 教職員2名

1回生：7名、2回生：7名、3回生：5名、  
4回生：4名

### 活動内容

#### 木山仮設団地

2月25日：子ども遊び

26日：炊き出し（カレーライス）、手芸（折り紙）、子どもあそびなど

#### 馬水東道仮設団地

2月25日：炊き出し（だご汁、餃子）、子ども遊び、ハンドアロマなど

26日：仮設団地清掃、住民との交流

#### 安永仮設団地

2月26日：カラオケ大会、ビンゴゲームなど

#### 益城町社会福祉協議会・まち歩き

2月27日：益城町社会福祉協議会に訪問し、國元事務局長と緒方事務局次長より講談。

益城町まち歩き・まとめ、発表

## 2016年度 熊本地震現地ボランティア参加者数

学年	人数	神	文	社	法	経済	商	理工	総合政策	人間福祉	教育	国際
1回生	32	0	4	7	7	1	2	2	7	2	1	0
2回生	29	0	1	3	4	3	2	0	12	2	2	0
3回生	14	0	3	3	1	0	2	0	0	2	0	3
4回生	22	0	2	5	6	0	4	0	3	0	0	2
研究科	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
計	99	0	10	18	18	4	11	3	21	6	3	5

## 「今年度の関西学院大学の学生によるボランティア活動を振り返って」

公益財団法人 熊本 YMCA 木山地域支え合いセンター所長

日野 充裕

2016年4月14日と16日に熊本地方を襲った地震において、震源地であった益城町は大きな被害にあいました。多くの家屋が倒壊し、行き場を失った住民は避難できる場所にそれぞれ避難をされました。益城町総合体育館は熊本YMCAが指定管理を受けて運営していましたが、そこへも多くの方が避難をしてこられ、一時期は1000名を超えるまでになりました。そのような中、関西学院大学の学生さんがボランティアとして総合体育館の避難所にも2回来てもらい、足湯や下駄箱づくり、子どもたちの遊び相手と、色々な活動をしてもらいました。学生さんたちの真摯な姿にも触れることができたことも合わせて、避難所の窮屈で不便な生活に潤いを与えるものになったと思います。

避難住民の仮設住宅の入居がほぼ完了したことを受けて、10月末には避難所は閉鎖されました。以後は仮設住宅での支援が行われることになり、熊本YMCAは木山仮設団地の地域支え合いセンター業務委託を受け、220戸、約550名の住民の支援を継続しています。高齢化率約50%ですが、幼児から高齢者まで幅広い年齢層の方が生活をされています。関学による仮設団地へのボランティアは11月12日（土）～13日（日）で、木山仮設団地とテクノ仮設団地に分かれて行われました。木山仮設団地では、子どもから高齢者までを対象に交流を深め、住民の皆さんには大変喜んでいただきました。学生の皆さんの感想も読ませていただきましたが、大切な気づきをされている方も多く、この活動が学生の皆さんの成長の一助になっていることをうれしく思います。

事前の打ち合わせにもわざわざおいいただき、関学の学生さんに対するボランティアを通して学んでもらいたいという姿勢がはっきりしており、熊本YMCAとしても活動の内容と一緒に考える機会を持つことができ、受け入れもスムーズにできたかと思います。学生さんのボランティアは事前の計画が重要です。与えられたものをただ行うのではなく、自ら何ができるかを考えて行動することが始めなければなりません。関学の学生さんたちはよいボランティアの環境におられるので、ぜひそれを利用していただきたいです。

## 熊本地震現地ボランティア参加者感想（学年は当時）

### 第1回熊本地震現地ボランティア活動参加学生

人間福祉学部3年  
松本 梨穂

私自身あまり積極的ではなく、周りを見て動いてしまうところがあります。例えば今日も足湯担当だったけど、ほとんど待合の方々とおしゃべりに回っていて、実際に触れ合えた高齢者の方は2、3人です。でも、どの場所でも何か意味があって、私にとってはすごく充実した1日でした。自分が率先して行うより、サポートや残り仕事をするのが好きなのですが、そのこともあってか全体に目を向けることができましたと思います。

今回参加したのは、自分のためという理由が大きかったかもしれません。経験として、少しでも自分の目で本当のを感じたいから、そしてそれが何か今後動くための勇気になるかもしれないから。

(中略)

私がこうして書いている今も、体育館でたくさんの方が薄いしきりと慣れない環境で眠ろうとしているのだと思うと、全然同じ目線にすらなれない!!と焦りのような、もどかしさのような、そんな気持ちに包まれますが、その気持ちはぶつせず、もっと純粋な気持ちで、自分にできることを一生懸命がんばりたいと思います。

### 第2回熊本地震現地ボランティア参加学生

社会学部4年  
早川 碩

今日は1日子どもたちと接することで疑問が生まれました。それは子どもたちが普段どのように過ごしているか、どのような子たちなのかということです。私たちボランティアが子どもたちと接することで、子どもたちも自然に態度が変わってしまうこともあると思います。たとえば、普段は被災した自分たちの街を見てがっかりしていたとしても、ボランティアがそこに介入することで子どもたちの外向きの顔がオンになり、私たちは子どもたちが本当はどう思っているかを知ることができないのではないかと思います。それが良いことか悪いことかはわかりませんが、仮にそれが悪いこととしたら、ボランティアは一体何のためにあるのだらうと思いました。

東日本のボランティアに1年生の時に参加して以来のボランティアでした。当時は答えを出すために頭を使い、結局考える観点が多すぎて頭がまとまらず、もやもやしたものがボランティアだと思いました。

今回はそれ以降に積んだ経験を踏まえてボランティアについて考えてみましたが、やはりよくわかりませんでした。ただ、私にとってのゴールは復興が進み、町も人の心も豊かになることだと思っています。そこに辿りつくためには多くの方が頭を働かせ、もやもやし、各々が考え込んで出した答えを実行することが大切だと思いました。

### 第3回熊本地震現地ボランティア参加学生

文学部1年  
手納 紗也香

今日の活動の中で一番印象に残ったのは、第1回、第2回の活動で知り合った人や足湯を通じて交流した人たちと再会できたことだ。特に前回、益城町総合体育館で足湯をさせていただいたおばあちゃんと仮設で再会できたときはとてもうれしくて、私のことを覚えてくださっていたことを知ったときは涙が出そうになった。自己満足かもしれないけれど、それだけで今回熊本に来てよかったなと感じた。

子ども遊びをしたり、YMCAの方の話を聞く中で感じたことは、子どもたちの安全な遊び場が少ないことだ。住居の周りはおおきめの砂利でこけるとかなり痛いだろうし、足場も不安定だ。それに子どもは遊び場が少ないからなのか車が通る道路にまで出て遊んでいる。どこか一か所でもいいから砂場のような場所が確保できるといいのになと思うが、現場の現状からすると難しいのかもしれないと感じた。

### 第4回熊本地震現地ボランティア参加学生

法学部2年  
高瀬 可奈

3日間の活動を通して、ボランティア活動とは思えないこともボランティアにつながっていると考えられました。日頃学部の勉強をしていて、自分の学部のことだけでは、足りないなと感じていました。

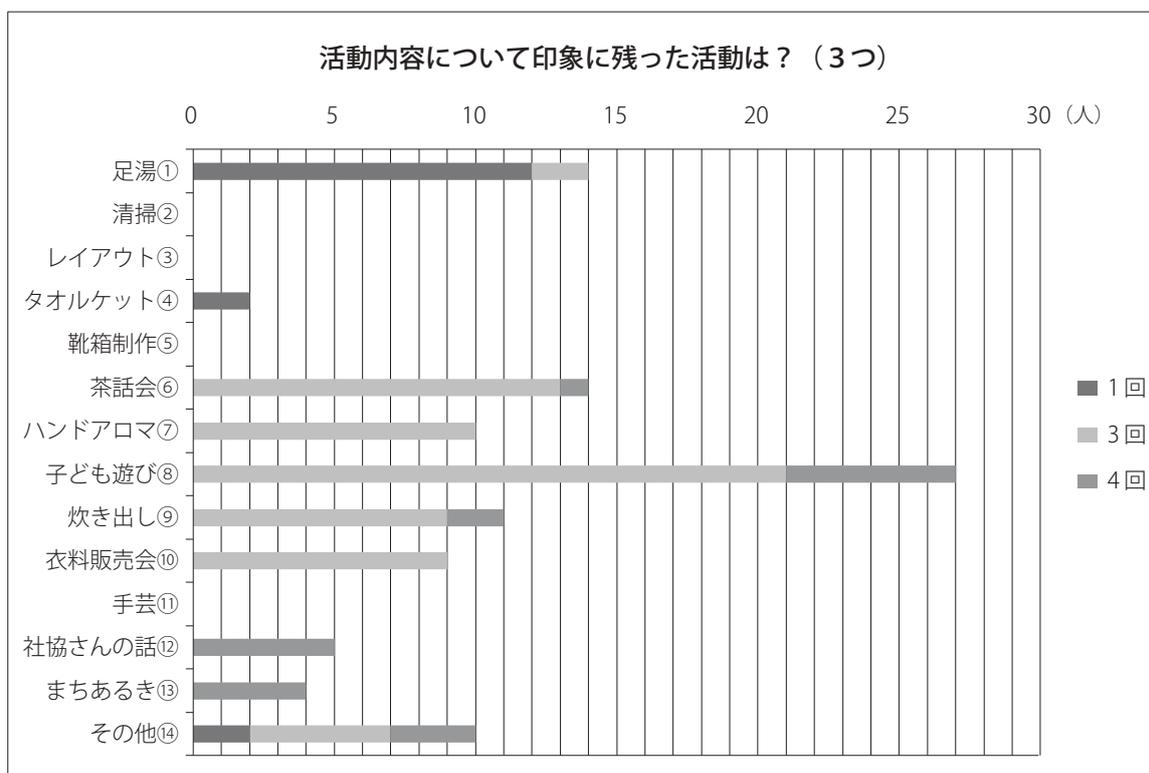
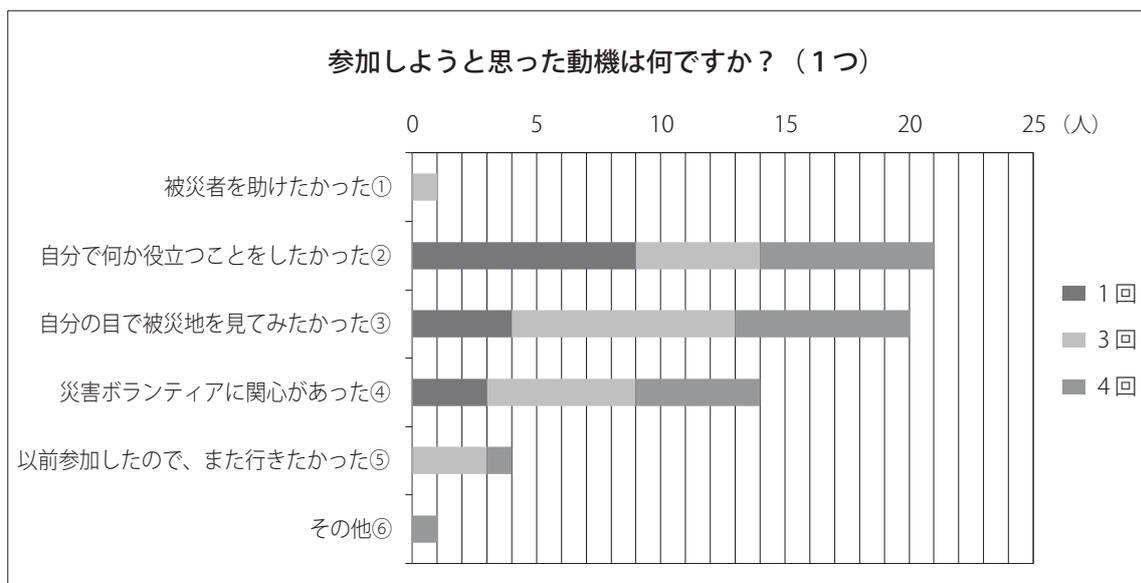
たとえば、周りのことを報道したり、日頃の対策をしたり、地域の方とのつながりを作っておいたりすることは一見ボランティアではありません。日常の一部として私たちの生活の中にあるものです。その中から、被災地のことを報道したり、日常の防災対策をしたり、地域のイベントに参加することは、私たちの日常をほんの少し変えればできることです。このようにもっと自分たちにできることはあるんだ！ということ、また自らの行動をほんの少し変えるだけでいいということを多くの人に伝え、実行していきたいと思いました。

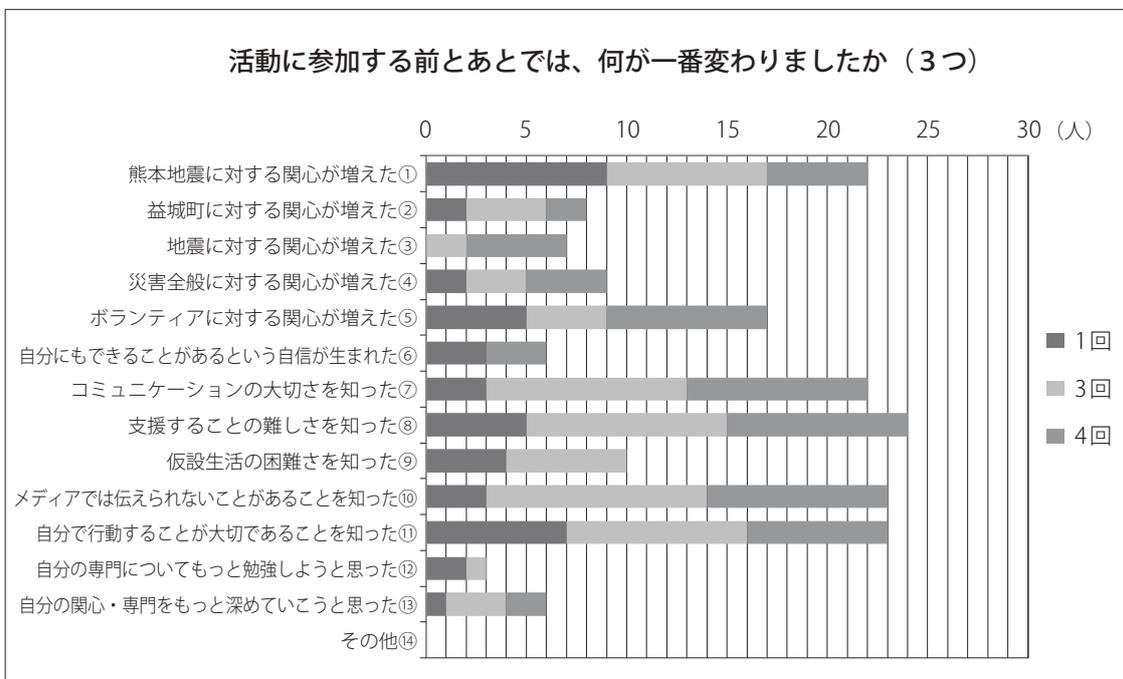
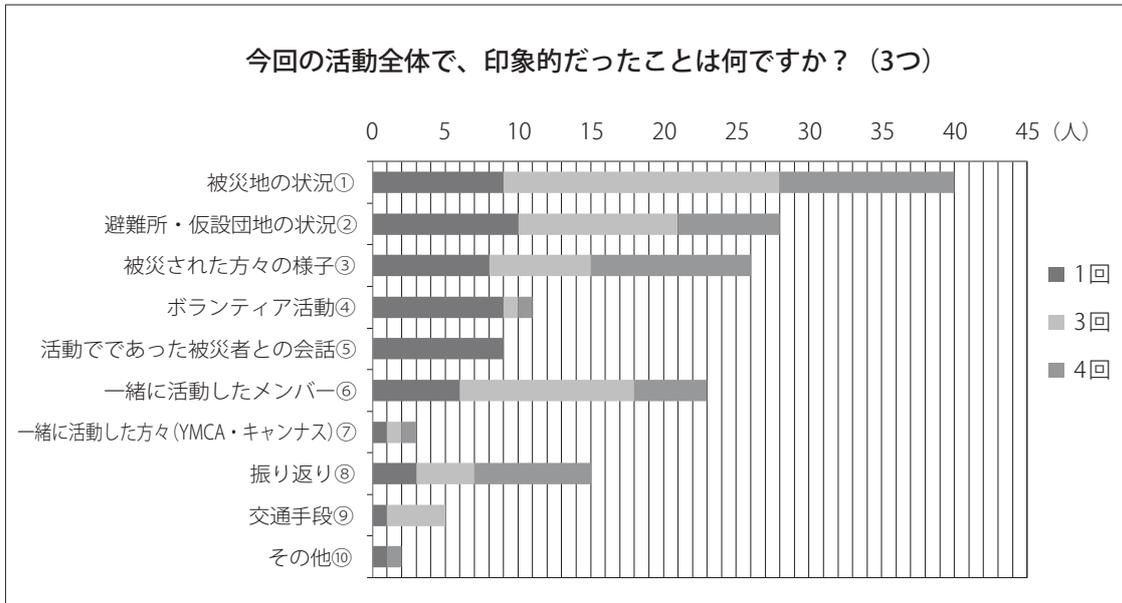
今回の活動は、自分の生活の中の意識をほんの少し変えることにつながったと思います。日頃の防災意識の低さ、地域とのつながりの少なさ、阪神地区に住んでいるにも関わらず、阪神・淡路大震災のことへの無知など、自分のボランティア活動に参加する前提が成り立っていなかったと思います。今日はこのような前提すらクリアせずにこの活動に参加していた自分がとても恥ずかしくなりました。非日常がいつ訪れてもおかしくない、というのは頭ではわかっていることですが、自分の行動として表れていないことだと思いました。しかし、今回気づけたことで、自分のこれからの行動を変えることができます。まずは自らを変え、周りに影響させられるようにしていきたいです。

## 熊本地震現地ボランティア参加者アンケート

### 第1回、3回、4回に参加した学生たちのアンケート結果（N=61名）

※第2回についてはアンケートを実施せず





## 4. ヒューマン・サービス支援室開設記念イベント

関西学院大学 ボランティア活動支援センター  
ヒューマン・サービス支援室

### 開設記念イベント

---

---

日時：2016年10月22日（土） 10：00~12：30

会場：関西学院大学 上ヶ原キャンパス 図書館ホール

ヒューマン・サービス支援室は関西学院大学におけるボランティアセンターとして2016年4月に誕生しました。支援室はヒューマンサービスセンターの実績を受け継ぎ、関西学院大学内のボランティアを様々な形で支援し、新しいボランティアの在り方を提案していきます。今回のイベントでは有識者の方々をお招きし、ボランティア関係者や学内部局の方、学生やOB、OGとともに支援室のこれからについて考えていきます。

### イベントプログラム

- 10：00 開会挨拶  
伊藤 正一(副学長/ボランティア活動支援センター長)
  - 10：10 基調講演  
田淵 結(関西学院 院長)
  - 10：30 シンポジウム1  
今までの関学におけるボランティア
  - 11：30 シンポジウム2  
これからの支援室と関学におけるボランティア
  - 12：20 閉会挨拶  
関 嘉寛(ヒューマン・サービス支援室長)
  - 12：30 閉会
- 
-

## シンポジウム1 今までの関学におけるボランティア

阪神・淡路大震災を契機として発足した学生、教職員のボランティア組織であるヒューマンサービスセンター（HSC）の20年間に渡る活動を振り返りながら、これからの関学におけるボランティア活動やその支援のあり方について考えます。

### 登壇者紹介（所属などは当時）

- |         |   |
|---------|---|
| 岡本 仁宏さん | 元HSC運営委員/法学部教授                              |
| 中南 臣吾さん | 1995年度HSC初代学生代表/日本オラクル株式会社<br>プリンシパルコンサルタント |
| 大田 詠子さん | 2005年度HSC学生副代表/関西学院職員                       |
| 竹本 和軌さん | 2015年度HSC学生代表/文学部4回生                        |

## シンポジウム2 これからの支援室と関学におけるボランティア

ヒューマン・サービス支援室の方針と体制を紹介しながら、ボランティアセンターとしての活動について考えていきます。特に学生コーディネーターの可能性と課題について話を深めます。

### 登壇者紹介（所属などは当時）

- |         |  |
|---------|--|
| 筒井のり子さん | 龍谷大学ボランティア・NPO活動センター<br>副センター長/龍谷大学 社会学部教授 |
| 成安 有希   | ヒューマン・サービス支援室<br>ボランティアコーディネーター            |
| 後藤実紗子さん | 2016年度 HSCコーディネーター部門代表/文学部3回生              |

## ★ 1 シンポジウム「今までの関学におけるボランティア」

### 阪神大震災から4日、動き出した関学生

■ 中南 1995年1月17日5時46分、震度7の大地震で避難者の数は31万人を超えたそうです。宝塚の市民より多いですね（現在の宝塚市人口約23万人）。これだけの人が神戸・西宮を中心に家を出て避難所に行ったという未曾有の大災害だったんです。木造の家が多く、家と家が寄りかかるような形で潰れていました。

そんな中、学生が自発的に学校に集まってきてボランティアをするという動きがありました。1995年1月21日に関西学院大学内にある宗教センターに場所をつくり始めて、25日には物資を取り扱う物資センター（以下、物セン）をつくりました。当初から学生のリーダーシップをもとに進めていって、どんどん大きくなっていきました。ボランティアをやりたいという登録者の数は、2月3日時点で1,000名を超えた。最終的には2,500名を超えたという記録が残っています。

ボランティアセンターはボランティアをやりたいという学生の登録と管理をやっていました。そして、避難所へニーズを聞きに行き、そのニーズに合う学生をマッチングするというコーディネートをしていました。もう一つは、関学宛に届いた物資の仕分けと避難所間の物資のトレードのための情報収集、コーディネートをしていました。当時、避難所にはたくさんの方々が出て、市役所には全国から山ほど物資が届くんですね。でも時々刻々とニーズが変わる。例えば、A避難所では布団が余っているけれど、隣のB避難所では布団が足りないとか。パンが大量にB避難所に来たけれど、賞味期限がきょうまでとか。その避難所だけではどうしても解決できないというときに先輩が思いついたのが、避難所の物資をトレードするコーディネートでした。当時はファックスで朝・昼・夕方の3便ぐらい各避難所とやりとりして、余っている物と足りない物の情報をいただいていた。その中で交換可能な物資を物セン側でピックアップして、物資を避難所間でト

レードしていました。私、たまたまその当時車（シビック）を持っていたので、小学校で余っている布団や座布団をサスペンションが沈むぐらいぎゅうぎゅうに詰め込んで段上小学校に持っていったということがありました。

西宮市では徐々に3月頃から避難所が落ちついてくるんですね。その中で、ヒューマンサービスセンターは学生が議論に入りながらも大学主導でつくられていきます。そして、宗教センターの2階に事務所を構えることができました。電話を設置していただき、活動予算もいただくという非常に恵まれた組織となりました。



### 次第に外部依頼がくるように

4月からはまず友達の友達を集めるところからスタートしました。震災直後ボランティアをやっていた学生に「友達をボランティアに誘ってほしい」と言うと、案外集まった。ピラをつかって新入生に配ったりもしてちょっとだけ新しい人もふえまして、そこから、さらに友達を誘ってもらってということで、だんだんと人が集まってきた。学童保育のボランティアは当初からやってまして、複数の学童保育所にお手伝いに行っていたんですが、これは非常に当初から大人気でした。やっぱり子ども好きの女子が多いんですね。あと、1つ思い出深いのが、関学でボランティアセンターをやっているのを知った関学のOGの方から連絡

があり、子どもが肢体不自由児なのでリハビリを手伝ってほしいという話をいただきまして、お手伝いに行くようになりました。これは一部のコアメンバーがすごく熱心に活動していました。この頃から震災に関係ない活動もちょっとずつできてきたという実感があり、今思い返しても非常に思い出深いものです。

### 社会に出て気づく、学生ボランティアの魅力

20年前と比べて大きな変化がありつつも、学生がボランティアをすることの意義は変わらないと私は思います。社会人になってみて思うのは、学生のときは時間がある、そして仲間がたくさんいます。また、ボランティアをすることによって社会とつながることもできると思います。毎日授業を受けて、サークルに行き、カラオケへ行って帰るといったのもいいんですが、ボランティアをやってみると、ボランティアに行った先でまた新しい出会いがあったりするわけです。社会とつながることができるのは非常に大きな意義があると思います。そこでインスタ向けの写真をたくさん撮ればいいと思います。プライバシーに配慮しつつ、たくさん撮ってアップして、楽しいことをやっていますよとアピールしたらいいと思います。と言うのも、楽しくないと続かないと思うんですね。自分が楽しいと思わないと、仕事でも何でもないのでやめてしまうんです。これからも学生が楽しみながらボランティアがやれるような組織になってほしいなと思います。

■岡本 ありがとうございます。当時からいろいろ問題があったことも、すごい活動をやってきたということもよくわかったんじゃないかなと思います。救援ボランティア委員会の機能は2つ。1つは、コーディネーションです。昼夜3交代制で8時間ずつ学生が近隣の避難所10数カ所にずっと張りついてボランティアをやってました。初めはトイレを掘る、避難してるたくさんの自動

車のガソリンが抜き取られないように夜警して回る、そういうことも含めて本当にあらゆることを学生たちがやっていました。その中で避難している子どもたちがやるのがなく寂しかったので、子ども遊びを一緒にできないかといって始まったのが「ひまわり」の前身でした。もう1つが、それらの避難所に向かう救援物資の調整と再配分です。一つの部屋がコンビニの倉庫みたいになっていて、毎日ファックスを受けて過不足調整をしていました。

それでは、それから10年後に何があったかをお願いします。

### 95年、10歳の私が見た世界

■大田 ちょうど10年前、中南さんと同じように迷いながら活動していたことを思い出しました。自己紹介を兼ねて、95年当時私が何をしていたかということからお話をしたいと思います。

95年、私は10歳の小学生でした。神戸に住んでおりましたので、自宅のマンションの隣にあった祖父母の築50年ぐらゐの木造家屋が全壊して、急に祖父母と一緒に住むことになりました。それをきっかけに祖父はだんだんと認知症が進んでいって、祖母と母がそれを支えるという生活をしておりました。

1月は授業がなく2月になって小学校が再開されました。しかし最初は給食もなく、牛乳とソーセージだけ配られるというような感じでした。小学校は避難所になっていたのも被災者の方々もたくさんおられました。避難所は広いスペースに椅子がないので、床に座ってる方が多いんですね。床は背もたれがないので、みんなごろごろ寝てるんです。なので、子どもだった私にとっては、避難をしている人は、なぜかいつもごろごろしている大人たちという認識でした。その方々の生活を支えるために全国各地からボランティアの方々に来てくださってたんですけど、ボランティアの人たちはみんなひげも髪ももじゃもじゃ、何か

ちょっと薄汚れている。自分も薄汚れているんですけども、何だかちょっと怖い存在でした。

全国各地からいろんな支援物資が寄せられてるんですけども、ミスマッチもたくさんある状態でした。使い古した鉛筆が寄せられてきて配られる。みんなでそれを仕分けて捨てるという、本当にそれが現実だったと思います。あと、震災後3カ月ガスが使えなかったんですけども、そこで一生分のカップラーメンを食べたので、もう食べたくないという感じでした。

### ボランティアに懐疑的だった私

生活自体はだんだん落ちついて過ごしていたんですけども、家庭ではやはり介護が必要な祖父母がいるので、家は安らぐ場所というよりも、仕事の場という感じで介護を手伝っていました。当時ちょうど介護支援の動きが活発になってきたころだったので、いろんなボランティアの方が来てくださったり、行政の支援があったりもしたんですけども、最初なのでみんな手探りで、やることは結構とんちんかんだだったので、大学に入学したころはかなり「ボランティア」というものに懐疑的な学生だったと思います。

高校生のころにアメリカで同時多発テロがあって、それにすごくショックを受けたこともあって、自分がどういう歴史の中に生きているのかという

ことに疑問を持ったので、文学部文化歴史学科に入学しました。ただ、国公立大学を目指してたので不本意入学で、居場所探しに春学期を費やしたという感じでした。

### ヒューマンサービスセンターとの出会い

私が入学した2003年は、関学生が広島で折り鶴に放火をするという事件がありました。関西学院はボランティアとして何かしないのかという大きな動きがあって、再度折り鶴を届けようとなり、課外活動団体が鶴を折ったり、地域の方が関学に折り鶴を送ってくださったり、段ボール何百箱の折り鶴が関学に寄せられました。それをつなぐというボランティアがヒューマンサービスセンターを中心に立ち上がりました。私は、そのころ自分の居場所を宗教センターに見つけていて、たまたま折り鶴が集約されていたのが宗教センターだったということもあって、安易に手作業ができて、手を動かしながら平和って何やらねとディスカッションをしたり、物思いにふけったり、そんなことができる絶好の場所としてヒューマンサービスセンターと出会ったということがあります。

2004年から正式にヒューマンサービスセンターのコーディネイト部門に入りました。これは本当にメンバーに引かれて入りました。コーディネーターとして受けた最初の依頼は小林の一般市民の方からのお電話でした。父が急に亡くなって母が1人になってしまった、母がとても悲しみを受けとめきれない、学生さんに話し相手になってくれないかという依頼でした。そのころのセンターは個人からの依頼はお断りをしていたので、専門の知識もないのでと丁重にお断りしたんですけども、人の話を聞くという専門性がないと、なんの役にも立てないのではないかという挫折感を最初の依頼で感じました。

そのころのメンバーは社会福祉を専攻している学生がとても多かったんですね。そういう学生は、自閉症の子どもたちとのかかわり方とか、障害者



の方の介護の知識とかを先生方からアドバイスを  
得ながら、自分も現場を持って活動しているとい  
う感じで、ちゃんと自分の核があるという学生が  
多かったように思います。私は特にそういうのが  
なかったので、フィールド探しをしながら2年間  
を送り、結果的にセンターの運営に積極的にかか  
わるようになりました。また、自分が被災者であっ  
たことから、そのころに起こった新潟の災害や淡  
路島の豪雨災害にも積極的にかかわりました。

2005年にはセンターが10年目を迎えていたの  
で、10年史の編集と白いリボン運動が活動のメ  
インでした。同時にいろんなところから日々ボラ  
ンティア募集の情報が寄せられてくるけども、それ  
をどんなふうに効果的に学生に流していったら  
いいかを悶々としておりました。誰に責任を置いて、  
誰がやるのかということを考えるんですけども、  
そうなるもただの仕事になって、押しつけとい  
う側面もでてきてしまって。人に頼みにくい雑  
務もあって、悩んでいた時期もありました。ボラ  
ンティア情報の発信も、その手ごたえをどうメン  
バーと共有したらいいのかと悩みながら活動して  
いたように思います。

白いリボン運動は毎年1月、2月にやろうと岡  
本先生が当時提唱されたものです。95年はボラ  
ンティア元年ということで、震災を思い起こしな  
がら、祈念、感謝、創生、ふだんから支え合う社  
会をとということを経験にしました。この運動は  
ヒューマンサービスセンターだけが担うものでは  
なくて、地域にある中間支援組織を中心に組織さ  
れ、2年活動を行うことができました。

### 学外に見つけた「自分のフィールド」

2006年に私はようやく自分のフィールドに出  
会いました。ヒューマンサービスセンターを飛び  
出して、神戸の長田にある「たかとりコミュニティ  
センター」というNPOで、在日外国人の子ども  
たちが自分たちを表現するビデオ作品づくりをサ  
ポートしたり、ラジオ番組をつくったり、子ども

たちが自分のことを自分らしく表現できるように  
と活動していました。ここでやっとボランティア  
に打ち込むことができたと思います。この年に  
10年史も完成しました。

■岡本 学生は常に悩みながら、実は教員も悩み  
ながら、ああだこうだと言い合い、いろんなプロ  
ジェクトをつくっていました。うまくいったもの  
もあるし、失敗したものもある。ある程度続いて、  
それがミッションを終えてなくなっていくことも  
あります。「学童保育ひまわり」はずっと続いて  
るプロジェクトです。東日本大震災でも、震災後  
にやり始めた学生の活動で長く続けているのは子  
どもの活動支援が多いですね。

阪神・淡路大震災のときに地域で立ち上がった  
ボランティア活動は、いろんな形で今も残ってい  
ます。例えば、コミュニティ基金をつくらうと動  
いたところも残ってるし、地域の団体で残って  
るところもあります。ヒューマンサービスセンター  
は、学生の日常的なボランティアを支援する大学  
のボランティアセンターという形で残りました。

### 2011. 3. 11 無力感を覚えた高校時代

■竹本 私の場合は1994年3月生まれですので、  
震災当時は1歳にも満たない赤ん坊で、全く覚え  
てないですし、東大阪市に住んでいたんですけれ  
ども、両親が慌てて起きて、こたつの下に僕を突  
込んだという話を聞いてるくらいです。どちらか  
というと東日本大震災が自分の中ではショッキ  
ングで記憶にすごく残ってる震災です。当時高校  
生だったんですけども、すごくショックであると  
同時に、高校生でしたので、何もできない無力感  
を感じたことを覚えています。

2015年度は、ヒューマンサービスセンターに  
3部門ありました。先ほど話があったコーディネ  
ート部門と学童保育のひまわり部門、あと  
2009年の佐用町の水害支援をやっているチャコ  
ネット部門です。私の代ではセンターが20年目

を迎えていたので20年史をつくることと、2016年度に立ち上がるヒューマン・サービス支援室とどう調整をするかを大学側と話すことが主な役割でした。

### 組織＝活動じゃない！

新たに立ち上がるヒューマン・サービス支援室との折り合いをどうするのか。コーディネート部門がそのまま残れば、大学のコーディネート組織と2つかぶることになるので、合わせてしまうのか。そうした場合、ヒューマンサービスセンターの中からコーディネート部門だけが抜けてヒューマン・サービス支援室と一緒にするのか、それともヒューマンサービスセンターを終わりにして、各部門が独立してやっていくのか。いろんな議論が行われていました。このような議論がされているときに私が一番意識していたのは、組織の話と活動は別物だということです。組織の問題があるからと言って、活動の質を落とすたくない。それをメンバーに発信することをすごく意識していました。ヒューマンサービスセンターの学生は非常にまじめで、おとなしい学生が多いという印象だったので、問題に直面したときにしゅんとなってしまふことを避けるために「難しい問題は3回生で対応するし、その状況はみんなにも説明するので、活動は一生懸命頑張っていこうね」ということをしきりに言っていました。

### ひるまず思いを伝える大切さ

後輩のみんなに対して思うのは、中南さんの代々のように次々活動がわき出てくるようになっていけばいいなと思います。今、皆さんがしている活動の多くは先輩がやってきた活動で、それを引き継いで実施していると思うんですが、その中でもどこか不十分な点や改善点を見つけながらどんどん変えていってほしいなと思います。素直でいい学生が多いですが、私自身は先輩に口答

えをしたり結構つついたりして、ちょっと煙たがられてた節もあったんですけども、それぐらいがちょうどいいと言いますか、違うことは違うと伝える方がいいと思います。そのときに絶対忘れてほしくないのは、自分たちの都合を優先するんじゃなくて、ボランティアの相手のことを考えることです。どういうことが必要とされていて、それに対して自分は何ができるのかということを考えて自分たちの活動を少しずつでも改善していってほしいなと思います。



### 次世代に向けてメッセージ

■ 岡本 次の新しい出発に当たって、経験した上で今後の活動について伝えていきたいことを一人ずつ話してもらいたいと思います。

■ 中南 学生さんにぜひともお願いしたいのは、「楽しんでほしい」ということと、ルーティンワークに終始しないでほしいというところです。仕事じゃないんで、楽しむと同時に何か新たなことにもチャレンジして、自分のフィールドを広げていったり、そういうことを通じてボランティアをやってよかったなと数年後に思えるようなことを、ぜひともチャレンジしてもらいたいなと思います。

■ **大田** 私は、うんと勉強してほしいと思います。やるべきことは、勉強するとどんどん出てくるので、そのおもしろさを知っていただきたいですし、何事もおもしろがってやったら成長すると思うので、ぜひたくさん勉強してください。

■ **竹本** 私は自分から発信していく力、一緒にやろうよとモチベーションの低い学生に対しても働きかけをして活動の輪を広げて行ってほしいと思います。つまり発信力、人間力を高めてほしいです。授業の単位も大事ですが、それ以外の勉強ももちろん大事。私自身、就職活動を終えたところですけども、これまでやったことがすごく生きたなという場面がたくさんありました。周りに発信する力をつけながら、頑張ってください。

■ **岡本** ありがとうございます。阪神・淡路大震災で約7,000の方が亡くなられて、西宮市では1,000人ぐらいの方が亡くなられたんです。私自身も西宮市で1,000の方が亡くなったのに、自分の生活がその前と後で変わらなくていいのかと思いました。そのとき、わっと沸いたようにボランティア組織ができたけど、こういう緊急にできたものを何とか私たちの生活そのものを、また大学や社会のあり方を変えるような、そういう日常的な活動が継続できるような組織にしたいという想いで、その年にヒューマンサービスセンターをつくりました。大学ボラセンで大事なことの1つは、学生は手足ではないということ。ボランティアはこんな楽しいし、意味があるから一緒にやろうよというのが大学のボランティアセンターの役割であると思います。教員や大学組織は、学生にボランティアを「させる」、のではなく、率先して自分たちの社会貢献の一翼として学生の活動を位置づけるべきです。学生は、「偉い」人が考えた事業のための手足ではない。そうじゃなくて、学生の皆さん方がどんな活動を自分たちでつくり上げるのか、今の社会で、普通のマーケットではうまく回らない仕事、役所が回らない仕事を、ど

うやったら創造的に自分の頭で考えてつくり出し、いけるのかを、教員や大学とあるときは協力しながら、あるときは戦いながら、つくり上げていく活動をぜひやっていていただきたいなと思っています。



## シンポジウム「これからの支援室と関学におけるボランティア」

■ **成安** シンポジウム2は、まず、筒井先生に龍谷大学の事例をお話しいただき、その後、支援室で抱えてる課題や、これからどのように支援室を機能させていくかについて私と後藤のほうから、それぞれの立場で筒井先生に質問させていただこうかと考えております。では、早速ではあります。筒井先生に龍谷大学の事例についてお話いただければと思います。よろしくお祈いします。

### 龍谷大学におけるボランティアセンター

■ **筒井** 龍谷大学ボランティア・NPO活動センター（以下、龍大ボラセン）は2001年にできました。龍谷大学は3つキャンパスがありまして、2つが京都市内、1つが滋賀県大津市です。京都にある2つは、大宮キャンパスという西本願寺の横にある小さいキャンパスと深草キャンパスです。しばらく後に瀬田キャンパスができました。

現在、深草と瀬田にボランティアコーディネーターがフルタイムで2名ずついます。加えてアルバイトが1名ずつ。学生スタッフ（関学の場合の学生コーディネーター）が、2キャンパス合わせますと、今年は146人います。毎年100人ぐらいですが、今年は1年生がすごいたくさんふえて、深草だけで93人います。

コーディネートは基本全員が行います。プラス、新企画を考えます。きのうも夜6時から全体委員会があって、学生からの新企画がいっぱい出てきました。このように学生スタッフは、自分たちのイベントも企画するし、全員がボランティアコーディネートにも携わっています。

私は1999年から龍谷大学に移りました。実はそれ以前から、ボランティアセンター設立企画案があったようです。関学にヒューマンサービスセンターができたらしいとか、神戸大学は学生スタッフを巻き込んでボランティアセンターをつくったとか、そういう大学があるのに我が大学はどうなんだみたいな話があって。準備委員会もできたけど、そのままになっていて、改めて99年

になってからもう一回構想ができて、私も2000年から関わるようになり、2001年4月に正式に発足しました。なので、当初から大学の組織として生まれたのですが、そのきっかけはまさにボランティアな教職員が集ってこういうのをつくりたいとか、なぜ大学にボランティアセンターが必要なのかみたいなことも話し合い、大学に提案してきたという経緯があります。

先ほど田淵先生がおっしゃったように、いいかげんさ、曖昧さを担保できる組織構造をいかにつくるかというのが大学のボランティアセンターの鍵だと私は思っていて、集まった先生方もその辺の感覚がすごくあったんですね。なので、センターを最初つくるときに、自由に意思決定できる部署に位置づけようと話しあったのを覚えています。

最初は深草キャンパスからスタートしました。しかし、メールマガジンへの登録者は、実際ふたをあけてみたら実は一番多いのは瀬田キャンパスにある社会学部でした。そこで学生たちから瀬田キャンパスにボランティアセンターが欲しいという声があって、独自に取り組みを始めました。2002年、2003年ごろは私の研究室がアジトのような感じで、学生たちが集まっているのを見て、私はそんなに面倒見がいいほうではないので、要所、要所コメントしますけど、あとは自分たちでやっていました。場所も何もないので、生協食堂前でブースをつくって呼びかけたり、実際に滋賀県内のいろんなNPOの方たちに自分たちで会いに行って交渉して、昼休みに来てもらって、青空の下でボランティア説明会を開いたりしました。当時瀬田キャンパスは学生数も少なく活気がありませんでした。授業が終わったら人通りも少なく本当に暗い感じで。そこで、自分たちでボランティアセンターをつくることによって瀬田キャンパスを盛り上げようということも意図していたようです。センターを開設するためには、大学を説得しないといけない。そこで、説得するために600人ぐらいへアンケートを学生が独自にや

りました。あとは開設するに当たって、まずはボランティア情報がないと始まらないので、地域のいろんな情報を自分たちで集めました。それからコーディネートの勉強ですね。そんなことをして、2003年6月からコーディネート活動を毎週火曜日、まだ拠点もない中で屋外に机を出してやり始め、10月ようやく場所が確保されました。こういう流れで瀬田キャンパスにもボランティアセンターができました。

### 学生と専従コーディネーターの危機

ここからはセンターの運営や学生スタッフと専従コーディネーターとのかかわりの中での、2つの「危機」についてお話ししたいと思います。

1つは、開設から5年ほどたった2006年ぐらいだったと思いますが、学生スタッフとコーディネーターの関係が、あるいは学生スタッフと教員たちの関係がめちゃくちゃ悪くなったときがあったんですね。何を言っても、「上から言われてる、押しつけられてる、管理だ」と学生たちは反発する。一方、コーディネーターから見ると、余りにもずさんなお金の使い方とか、こんな企画の水準でいいのかということがあって、任せておけない。両方に話を聞くとどちらも間違っていないんです。任意の一サークルではなく、学生が払っている授業料を使って活動しているので、いいかげんなお金の使い方ではいけない。一方、学生たちの話を聞くと、そのときのコーディネーターは元中学校の先生で、どうしても「指導」という言葉が出てしまうタイプだったんです。「育てなきゃ」というのが強く出てしまっていたんですね。この時、私は副センター長だったのですが、当時のセンター長と一緒にコーディネーターや学生代表に丹念に聞き取りをしました。

### 「意思決定」方法の改革へ

この状況を打破するためには、「物事を決めるときに一緒の場にいるしかない」という話になって、会議体を改革していきました。もともと「センター委員会」というのがあって、ここは完全に教職員中心で年4回ぐらいの会議を行っていたんですが、その他は学生スタッフ会議だけだったんですね。両者が一緒に話し合い、意思決定する場がなかったのです。そこで、新たに通称「ボラセン会議」を作りました。この会議はセンター長と副センター長、事務課長、コーディネーター、学生スタッフ全員が入ります。学生スタッフ100名全員は無理ですが、だいたい50人ぐらいは参加しています。そこで、職員側も学生側もそれぞれが企画案を出し、みんなで話し合い、決めます。

もう一つ、「センター委員会」に学生が出られるようにしました。規定上正式な委員にはなれませんが、オブザーバーで瀬田と深草の学生代表2人が出られるようにしました。毎年第1回目の会議のときにそれを認めていただくようにしています。学生は先生たちがずらっと並んでいるのでめちゃくちゃ緊張するようですが、だんだん説明も上手になってきますね。あとは、学生スタッフとコーディネーターで毎週会議をしたり、「スタッフ会議」はコーディネーターと事務課長にセンター長が入って会議しています。どこかで決まったことを一方的に知らされるのではなくて一緒に決めようと、崩壊しそうなときに体制を変えました。

### 「ピンチをチャンスに」変えた学生達

もう一つは危機というほどではないのですが、実は深草キャンパスのボランティアセンターが以前は学生の動線にあつてとてもいい場所だったんですね。授業が終わった帰り道に、ふらっと立ち寄れるところ。だから、そんなに興味がない学生も来たりもしていました。ところが、その建物が

建てかえられることになって出ないといけなくなりました。移った場所がこともあろうに、道を隔てた建物で一般学生が通常行かないような場所、しかも正面じゃなくて奥まったところになってしまって、全然学生が来なくなっちゃったんですね。そんな時、やっぱり学生ってすごいなと思ったのが、コーディネーターから出た「ピンチをチャンスに」という言葉を合言葉にして、「出張ボラセン」という企画をかなり一生懸命にやりました。あとは「アタックボラセン」という取り組みで、パネルにいっぱい写真をつけてどんなボランティアがやりたいですかというのを、関学で言えば中央芝生でくつろいでいる人のところに直接話しかけていく企画。これはボラセンに来てほしいという思いはもちろんですが、もう一つは、自分たちはいろいろ考えて企画するが、今ひとつ参加者が少ない。どうも自分たちが考える企画と一般学生のニーズが合っていないんじゃないかということで、実際に聞いてみようとなりました。1日に200人ぐらいずつ1週間やって、1,000人ぐらいの一般学生にアタックしました。その結果、センターに来る学生は半年ぐらい落ち込んだんですけど、その後たくさん一般学生が来てくれました。

もう一つ、置き傘を活用するというユニークな企画がありました。急に雨が降ったときに、傘を買わないといけなくなりますよね。一方で、置きっぱなしの傘が山ほど学生部にあったので、それを借りてきて、「急に雨が降ってきて困ってる方はボランティアセンターに来てください。そこで傘を貸します」としたんです。傘を借りに来た学生がそれをきっかけにチラシを見て活動に興味をもって参加する例もありました。こういうのは学生ならではの発想だなと思いました。

■ **成安** おもしろいですね。龍谷大学の今の事例を聞いていて、私もすごくわくわくしました。私のような専従コーディネーターでは思いつかない学生コーディネーターならではの企画や一般学生



に対して身近な存在でいられるのが学生コーディネーターの強みだと私も感じているんですけども、こういう企画や発想を引き出すために、専従コーディネーターや学校側が意識してることはあるんですか。

### 企画や発想を引きだす工夫

■ **筒井** 多分、専従コーディネーターは優しいときと、むちゃくちゃ怖いときもあるんじゃないかと思います。私は教員なので、前へ出過ぎるとそのつもりではなくてもどうしても教員と学生になっちゃう。よっぽど悩んでいるときは私も個別にリーダーの悩みを聞いたりしますが、それ以外はコーディネーターに任せる。コーディネーターは「先生」ではないので、ある意味でうまく学生を追い詰めます。「君がやりたかったことは、こんな程度でいいの?」とか。学生はスイッチが入ると、あとは放つといてもががやる。ただ、1回ちょっと背中を押すとか、もうちょっと考えてみないといけんじゃないかとか声掛けをする。その辺は、一般の地域のボランティアセンターのコーディネーターとちょっと違うところかなと思ったりしています。コーディネーターは教員じゃないんだけど、やっぱり少し教育的なことをしてると思うんですよね。

■ **成安** 学生の中にみんなを引っ張っていくような存在がいたり、みんなでやろうみたいな雰囲気がある中で先ほど出たような企画をやられたんですかね。

■ **筒井** 学年によりますよね。すごいリーダーシップがある人がいてくれるときもあれば、そうではないときもある。このアタックボラセンはリーダーシップのあるリーダーが、私がどうしてもやりたいプランですというのでやった例です。そういうタイプじゃないんだけど、いわゆる受容型の学生がリーダーのときは、それまで意見を出さなかった1回生がいろいろ出すようになったり、そういう意味では、学生のタイプを見ながらという感じなのかなと思いますね。

■ **成安** 今、実際に学生代表されてる後藤さんがいろいろとやっている中でどの課題を感じてると思うんですけど、その点はどうですか。

### 龍大ボラセンの熱量の秘訣

■ **後藤** 龍谷大の学生さんは、一人一人の熱量が物すごくあるんだなということをお話を聞いててすごく感じました。もちろん多少の温度差はあるかもしれないですが、これだけの大人数で同じ熱量を共有するために、ボランティアセンターで一貫したテーマや目標は具体的にあったりするんでしょうか。

■ **筒井** 熱量はもちろん全然違いますし、多分龍大のリーダーも後藤さんと同じように悩んでいると思います。私たちは年2回合宿をやっています。瀬田キャンパスと深草キャンパス、両方のスタッフ百何十人が集まって、オリエンテーション合宿を一泊二日でやる。その他にキャンパスごとに、春、夏2回泊まりで合宿をやっていますね。それは毎回自分たちで、もう一回ボラセンの原点を見つめ直そうとかテーマを決めてやるんです。そ

れに応じてワークを入れたり、ディスカッションのテーマを考えたりということやっています。その時々々のテーマを見ると、その時の学生スタッフの悩みがそのタイトルにあらわれるんです。やっぱり一泊二日泊まってじっくり話すことは、日々のミーティングだけでは得られないものがあると思うので、それは1つ大きいのかなという気はしています。

### コーディネータースキル継承の工夫

■ **後藤** あと、今、課題として、スキルの継承があるかなと私自身感じています。学年が上がるにつれて経験がふえるのは当然のことだと思うんですけど、余りにもそのときの代のコーディネートの質が落ちたり、変動がありすぎると、訪問者の方が不満を感じるのではないかなと思うんですけど、学生のスキルの継承という点で何かされてることはありますか。

■ **筒井** コーディネートに関しては、結構トレーニングを自分たちでやっていますね。合宿の内容は、オリエンテーション合宿も全部学生が決めます。もちろんコーディネーターがアドバイスをしながらだけでも。それを毎回見ていると、「コーディネーションスキルを上げよう」みたいなコマがあって、2時間ぐらしかけてやってるみたいです。あと企画に関しては、企画書をしっかり書くということにしています。すごく思いがあって問題意識もしっかりしてるんだけど、その思いが文章ではあらわせていないということもあります。その辺が多分スキルですね。あるいは、いまいち問題意識も不明確という場合もある。それも慣れだと思うので、コーディネーターに相談に乗ってもらったり、先輩たちに相談に乗ってもらったりしていくといいですかね。企画書も年々残っていくので、それも多少参考にしながら、しっかり落とし込んでみるのがいいかもしれないですね。

■ **成安** 合宿で使うトレーニングとかも、内容とかは継承される風習があるんですか。

■ **筒井** 基本の企画は学生たちがするので、もちろん新しくしたりもするんですが、合宿を企画するチームがいろいろ工夫しています。私は学生スタッフが学外に出ていくのも大事だと思っているので、例えば、京都のユースビジョンがやっている大学ボランティアセンターフォーラムとか、学生リーダーが集まるような研修とかに行っていて、他大学の情報を聞いてきて取り入れたりしています。ある時、オリエンテーション合宿に行ったら、面白いワークをやっているのでも、学生にどこで知ったのと聞いたら、学外の研修で受けたワークをアレンジしたと言っていました。他大学の人たちとの交流の場に出かけていくのがすごい大事なんだなと実感しました。

### 「らしさ」の醸成

■ **成安** 先ほどシンポジウム1で竹本さんが、ヒューマンサービスセンターの学生たちはすごくまじめでいい子たちですと言っていました。私もそれはすごく感じているところがあって。でも、何がしたいとか、私とのコミュニケーションだったりとか、そういうところをもっとちゃんととっていかないといけないなと思っています。トレーニングでも、こういうところを強めたいとか、合宿で何がしたいということと一緒に決めていけたらいいなと今の話を伺いながら思いました。

また私が伺いたいの、これは岡本先生にもぜひ伺いたいなと思ってるんですけど、ヒューマン・サービス支援室という形になって、関学らしいボランティアセンターであったり、関学らしいコーディネートはどう学生COから引き出して、今の支援室として押していくかというところを考えてまして。センターのここが龍谷大らしさで、こういうところを押してますというところがあったら、ぜひ教えていただきたいです。

■ **筒井** 龍大らしさね。大学の機関ではあるんだけど、学生が自由に発想していけることですかね。あとはどこの大学もそうかもしれないですが、最近は大学の身近な地域とのつながりで企画がたくさん生まれてきていますね。龍大生はどちらかというとおとなしいので、地域の方にしたら物足りない部分もあるとは思いますが、逆に、じっくり中に入れてもらって1年、2年、3年と関係をつくって、今は地域の自治会の方やNPOの方ももちろん、商工会やいろんな方たちと一緒に地域の企画をするような感じになってきています。この辺は龍大だけじゃなくて最近の傾向かもしれないけれども、地域にじわっと入っていくのが龍大らしい感じはしますね。



■ **成安** 今の支援室もまだ始まったばかりで、解決していかないといけない課題もいろいろあるんですが、そんなときも、先ほどあった「ピンチをチャンスに」じゃないですけど、悪いところばかり見るんじゃなくて、それをいいように変えられるように、むしろそこが「らしさ」になっていくといいなと思いました。龍谷大の学生がじっくり地域に入ることを「らしさ」と捉えるように、関学でもそういう「らしさ」を引き出していけたらいいなと思います。

ちょっと視点は変わるんですけど、一般学生にとってボランティアはすごいことという認識

で、生活の一部じゃないですけど、そこにあるからやってみるといふ形じゃないなと感じています。一步踏み出すのにすごくハードルが高いものになっている感じがして、支援室ができたことも学内で余り知られてないので、来室者もまだ少なくて。もっと支援室が学生にとって気軽に来れる場所になったらいいなと思っているんですが、みんなの中でボランティアをすることが普通のものになっていくために、支援室はどんなことができるのかと考えていて。何か支援室でこういうことをやったらいいんじゃないかということはありませんか。

### ボランティアを「身近に」するには？

■筒井 やっぱり学生のニーズやその感覚がわかるのは学生コーディネーターなので、学生コーディネーターからアイデアをどれだけ出してもらえるか、が1つ。いろんな企画やイベントもやるんだけど、基本はやっぱり、より多くの学生に「ボランティアという生き方」を知ってほしいと思うので、そこへの工夫は中心にやってほしいというのは龍大生にも言っています。そこで大事なのは、ボランティアをする人を単にふやすのではなく、ボランティア活動の本当の意味を伝えていくことだと思うんです。瀬田キャンパスは社会学部や福祉学科があるのでボランティア関係の科目が昔からあったんですが、深草キャンパスは全体としてボランティアやNPOの科目が余りなかったんですね。それで、3年前に教養教育科目としてどの学部学年の学生でも受けられるような「ボランティア・NPO入門」というチェーンレクチャーの科目ができたんです。私はそこでボランティアの基本の話をして受講者に感想を書ってもらったんですが、3年前に本当にびっくりしたのが、200人近い受講者のうち1割以上、下手したら2割近くの学生が、ボランティア活動に自発的という意味があることを、きょう知って驚きましたみたいなことを書いてるんですよ。あるい

は、ボランティア活動って誰かに言われてやるもので、自分からいろんな活動を選んでいいと思いませんでしたとか。それに愕然としました。小・中・高で受けてきた福祉教育やボランティア学習を混乱した形で受けてきていたんですね。ボランティアは掃除をさせられるとか、とにかく人を集めりゃいいとか。ボランティアはそういうものではない、それを正しく伝えられるかが大事だと思います。

### 自分の言葉で伝えられる物語を

■成安 これからヒューマンサービスセンターのCO部門から変わって、支援室の学生COとして活動していく学生に、最後にメッセージをいただけますでしょうか。

■筒井 ボランティア活動は個人でもできるし、サークルでもできるので、自分たちの関心のあるテーマをやっていったらいいと思います。そして、それを広げていく。さっき言ったように、単に数をふやすんじゃなくて、ボランティアの本質を伝えていくこと。これからの社会の中でボランティアな市民の行動はものすごく大きな意味があるので、それを伝えていく役割ってすごく大事です。実際に自分が経験して、実感して、自分の言葉で伝えられるようにしていく。物語が必要です。自分の物語として語れること。ボランティア活動ってこんなんですよ。いろんなボランティアの経験を積んで、自分で語れるようになっていったらいいと思います。

# 学生コーディネーター



## 1. 学生コーディネーター（学生 CO）とは

### ヒューマン・サービス支援室における学生 CO の位置づけ

ヒューマン・サービス支援室は関西学院大学内におけるボランティア文化を広げ、深めることをその設置目的としています。そのために、各種事業を行います。その中核にあるのが学生コーディネーターの養成とその活動支援です。

関西学院大学のボランティアセンターの役割を果たすヒューマン・サービス支援室は、大学ボランティアセンターとして、学生の、学生による、学生のためのボランティアコーディネートおよびボランティアの活性化を目指しています。したがって、コーディネートおよびボランティア活性化に関するイベントにおいても、その企画・実施の中心にあるのが学生であるべきです。支援室は、彼らを組織に取り込むのではなく、学生 CO の自主的な活動がより創造的になる手助けをすることで、支援室の目的を達成できると考えています。

支援室では学生 CO に、学びの場として支援室や学生 CO の活動を活用してほしいと思っています。自分の思いをメンバーと共有し、時には挫折しながらも、自分の思いを実現していく喜びを感じられる場にしたいと思っています。そのためには、学生 CO も自覚と責任を持って活動することが必要となります。まだまだ組織的な求心力が十分ではない中で、学生 CO として創造的かつ組織的な活動が難しいため、学生 CO には研修や他大学の学生スタッフとの交流などが必要となります。また、専従コーディネーターと密にコミュニケーションを取り、自分たちの課題を明確化し、その解決をみずから考えていく必要があります。

このような関係と環境を作ることにより、学生 CO とヒューマン・サービス支援室が協働し、関西学院大学におけるボランティア活動がより一層盛り上がっていくと考えています。

## 年間活動スケジュール

日 程	活 動 名
4月1日	新入生オリエンテーション（三田、聖和）
4月2、4日	新入生オリエンテーション（上ヶ原）
4月8～18日	仮センター
4月16日	第1回新入生歓迎会
4月24日	第2回新入生歓迎会
4月26～27日	ボランティア EXPO
6月1～10日	授業内スピーチ
6月15～20日	出張ボランティアセンター
7月～9月	ボランティアツアー（全9回）
11月3～5日	新月祭「子ども縁日」
12月1～14日	授業内スピーチ
12月12～16日	ボランティア week ・ 図書館展示 ・ ホットドリンク会 ・ 生協井回収～あなたの1杯がだれかを救う～ ・ 学内団体交流会 ・ クリーンアップ諸成 ・ 竹炭石鹸づくり
その他、週2回ミーティングを実施	

## 2016年度の活動方針

### 2016年度年間目標『～温故知新をここに 変革～』

今年度は、新体制に移行するにあたり、大きな変化を伴う。その中で、今までのヒューマンサービスセンターコーディネート部門で培われてきたものを再認識し、より我々自身も成長し、活動の質を高めるため、今年度の年間目標に、2015年度の年間目標『温故知新をここに』を引き継ぎながら、更に、新体制にあわせ柔軟に変化していくよう、今年度の年間目標を『～温故知新をここに 変革～』とした。

この目標の「温故・知新・変革」の3つの言葉に込めた意味は

#### 1. 温故

20年の実績と活動を振り返り、己を知る。20年間をふまえ、過去の成果を知り、現状に合った形で取り入れていく。また、今までのヒューマンサービスセンター（以下、HSC）で培われてきた部門を超えた人と人との繋がりを更に深めていく。

#### 2. 知新（内向き）

「温故」で述べたものをふまえ、我々自身のボランティアに対する意識をあらたにし、活動について、また、ボランティアそのものについて見つめ直す。積極的なコーディネート活動、また、実際にボランティア活動に参加することで、日々のコーディネート力を養い、ボランティア情報についても精査していく。

#### 3. 変革（外向き）

昨年度の反省を引き継ぎ、年間、関学生300人のボランティアコーディネート为目标に設定。（2014年度コーディネート数291人、2015年度212人）

訪問者、参加者に、今の生活圏だけに留まらず、広い視野や気づきを提供する場にする。また、過去のHSCの認知度の低さを反省し、支援室新設に合わせ、広報にも力を入れる。

#### 2016年度HSCは形を変え、新しいものになる。

それを転機として、今までの過去20年で積み上げてきたものを大切に継承し、課題であったところは改善していきたい。そして、支援室内でより良く活動していくための土台をこの一年で作りに上げていきたい。

## 2. 学生コーディネーターの活動



### 仮センター

実施期間：4月8日～18日（土日除く）

内 容：銀座通りにブースを出展し、新入生などに対してHSCの組織や各部門の活動紹介などを行なった。

仮登録者数：31名

感 想：4月の早い時期から新入生にHSCのことを知ってもらえる良い機会になったと思います。



### ボランティア EXPO

実施期間：4月26日・27日

内 容：HSCを含める様々な学内ボランティア団体が揃ってブースを出展し、団体や活動説明を行なった。

来場者数（のべ）：103名

感 想：様々なボランティア団体が同じ空間で活動紹介を行なったことは、ボランティアに興味のある学生にとって非常に良い機会になったと思います。これが団体に入るきっかけとなっていれば嬉しいです。



### 出張ボランティアセンター

実施期間：6月15日～20日（土日除く）

内 容：当時の活動場所であった文学部棟裏に位置するセンターから、秋学期からの活動紹介である支援室に出張しボランティアコーディネートを行なった。

対応者数（のべ）：26名

感 想：今後の活動場所である支援室で活動を行えたことは支援室の認知度を向上出来たことに加え、学生COにとって良い経験となりました。今後の出張ボラセンでは集客数をより上げていきたいです。

## ボランティアツアー

実施期間：7月～9月 計10回 参加者数（のべ）：33名

### ■ にしのみや聖徳園

7月30日

縁日のお手伝い

- ・マンツーマンでお年寄りの方を誘導
- ・店の手伝い

### ■ 子どもセンター さぼさぼ

8月3日、27日、9月6日

学生ボランティアの体験にて参加

- ・子供たちと遊ぶ
- ・保護者の方とお話する

### ■ 介護老人保健施設・デイケアセンター

陽喜な家

8月7日

夏祭りボランティア

- ・イベントスタッフ
- ・利用者との交流

### ■ 日本熊本協会

8月11日、28日、9月8日

保護された熊の飼育の手伝い（大阪・和歌山）

- ・飼育小屋等の清掃
- ・熊への給餌

### ■ 社会福祉法人 阪神福祉事業団 ななくさ学園

8月27日

- ・子どもたちの遊び相手、学習支援
- ・行事補助

### ■ KOBE足湯隊

9月2日

被災地で行われる足湯ボランティアの体験

### 感想

活動を通じて貴重な時間を過ごすことができ、ボランティアの重要性を改めて感じる事ができた。

実際にボランティアをし、コーディネートなど日々の活動に活かせる経験を得ることができた。



## ボランティア week

実施期間：12月12日～16日

「つながる」というテーマのもと、ボランティア強化週間として様々なイベントを企画・実施。

準備期間：12月1～14日 宣伝期間、授業前スピーチ、ビラ配り

### ■ 図書館展示

ボランティア week の紹介  
支援室の学生コーディネーターの活動紹介  
関学公認のボランティア団体の活動紹介

### ■ ホットドリンク会（全2回実施）

来室した一般の関学生に温かい飲み物を提供して、支援室や学生CO、ボランティア以外にも学校生活についてなど談話。

### ■ 生協丼回収

～あなたの1杯がだれかを救う～（全2回実施）

1杯10円で換金できる生協丼を関学内で呼びかけ回収する募金活動。

### ■ 学内団体交流会

学生COと公認団体である上ヶ原ハビタット、宗教総部の三団体での交流。

今後、新企画をするなら何がしたいかなどお題を決めてグループワーク等を通じて交流を深めた。

### ■ クリーンアップ作戦（全2回実施）

一般の関学生と一緒に学内の落ち葉拾い清掃活動。

### ■ 竹炭石鹸

公認団体ほっとコミュニティ チャコネット（元HSC部門）の活動の一つである佐用町活性化の一環として、名産品である竹炭を使った石鹸づくりを行った。

### 感想

支援室の認知度を上げるために企画したが、なかなか集客がうまくいかず、また準備期間も短かったため改めて企画を成功させる難しさを感じた。

しかし、多くの反省点が出てきた分、次につながる事ができる部分も多いという点においては収穫があったと言える。



### 3. 学生コーディネーター研修会

ヒューマン・サービス支援室では、活動の中核にある学生 CO がコーディネーターとして十分なスキルを発揮するために、研修会をおこなっている。2016 年度は支援室における学生 CO の位置づけも明確ではなかったため、ボランティアコーディネーターとしての自覚と基本的な知識およびヒューマン・サービス支援室における位置づけなど、学生 CO がヒューマン・サービス支援室で活動する上での基本的なことからについて研修をおこなった。

日程：2016 年 12 月 17 日（土） 10：00～18：00

#### <研修会の趣旨>

・ヒューマン・サービス支援室学生ボランティアコーディネーターとしての「アイデンティティ」を確認する。

そのために

- ① 学生ボランティアコーディネーターの基本を身につける
- ② ヒューマン・サービス支援室のルールを共有する

#### <研修内容>

- ① 基本的知識の確認
  - ボランティアとは？
  - 大学ボランティアセンターとは？
- ② 支援室について
  - 学生 CO の位置づけと支援室との協働関係を確認する
  - 支援室で活動する上での自分たちのルールを考える
- ③ ボランティアコーディネーターについて
  - コーディネートとは単なる情報提供ではなく、相手の新しい力を引き出す活動であることを確認する
- ④ コーディネートの role play
  - 従来までのコーディネートと教科書的コーディネートの違いを確認し、自分たちにとってあるべきコーディネートの姿を考える
- ⑤ 企画について
  - 企画をおこなうことは関西学院大学内に新しいボランティア文化を生み出すことであることを自覚し、加えてやってみたいことを形にすることが重要であることを確認する
  - 企画立案ワークショップを通じて、企画のプロセスを学ぶ



## 受講した感想（学年は当時）

法学部2年  
南條 早紀

今回の研修会では、普段の私たちの活動を見直す良い機会となり、たくさんのことを得ることができた。特に、訪問者に対して行うボランティアコーディネートについてだ。いかに自分の体験談や知っている情報を伝えることができるかによってコーディネートの質に差がつくことを改めて感じ、経験を積むことの大切さを学んだ。学生COが支援室で活動している目的の1つは、学生の訪問時にボランティアを身近に感じてもらい、学生間だからこそ訪問者にとって話しやすい環境をつくりだすことだと思う。しかし、たとえ話しやすい環境づくりができたとしても、訪問者が本当に探しているボランティア情報を提供しコーディネートをするのができなければ、それはコーディネートしたとは言えないだろう。実際にわたし自身のコーディネートを振り返り、1つのボランティア情報を伝えるというよりも、訪問者の方とその場で一緒に共有するということが度々あった。その点を改善するためにも、様々な経験を積み、練習をしつつコーディネートの質を高めたい。また、ボランティア情報を提供して下さる方々は、私たちがきちんと正しい情報を伝えると信頼して下さるからこそ提供して下さるのだというお話を聞き、学生コーディネーターとしての責任感を身に染みて感じた。

文学部1年  
森本 敦史

ボランティアの定義について改めて知ることによって今後のコーディネート活動に活かせると感じました。やはり、ボランティア経験者とボランティア未経験者でボランティアのイメージにギャップがあり、そのギャップを埋めることでボランティアに対しての敷居を下げるができると思います。学生COがこのギャップを埋めることが必要不可欠であり、これからの課題であると考えられます。ボランティアウィーク、その他の広報において、ギャップを埋めることを重視し、関西学院大学でボランティアを手段として学生が用いるようになればより活発になると思いました。今まで、比較的ボランティアコーディネートをする機会が多かったものの、学生に満足してもらえなかったことも多く感じてきました。研修を終えて考えてみると、コーディネーター側が喋る時間が長く、質疑応答のようになってしまったような気がします。これからは、どんな来訪者でも気づいたら来訪者がたくさん喋っているような空間や質問を考えていかなければならないと感じました。そのためには、コーディネート練習の中で、聞き出す力(傾聴力)を重視し、相槌1つにもこだわっていきたいです。

## 4. 来年度に向けて

人間福祉学部2年（当時）  
2017年度学生CO代表 窪田 風子

今年度の代表を務めさせていただきます、人間福祉学部社会福祉学科2回生の窪田風子と申します。私は阪神・淡路大震災発生後の1996年に生まれました。関西学院大学のボランティアの歴史はこの阪神・淡路大震災での「関西学院救援ボランティア委員会」から始まったと聞いています。それから今まで多くの先輩方がこの大学でボランティア活動をされてきたことによって、今の支援室という場ができ、これからその先輩方の想いも背負って活動していかなければと感じています。

これまで私たちが活動してきたヒューマンサービスセンターから、昨年度にヒューマン・サービス支援室へと体制が変わり、センターの時代から先輩方が積み重ねてこられた歴史を受け継ぎつつ、新たな組織としてチャレンジしていけたらと考えています。今年は体制変化の初めの代であり、現在は移行期で様々な困難もありますが、それを乗り越え来年度以降の土台作りの年にしていきたいです。支援室として、関西学院大学全体のボランティア団体をまとめることも重要な役割であり、ネットワーク作りの第一歩を果たせればと思います。

支援室となり、専従コーディネーターがいることで、今まで以上に様々な視点から活動のアドバイスをいただける環境になり、私たちがやりたいことを実現する可能性が大きく広がりました。その中で、学生である私たちだからこそできることを実行していこうと思います。

学生コーディネーターの今年度の目標は、「せや、支援室行こか」です。まだ支援室が発足して間もないこともあり、認知度の面では多くのメンバーが課題を感じています。ですので、関学生が支援室をもっと身近に感じられる、気軽に訪ねてもらえる場所にしたい、という思いを込めています。このスローガンのもと、1年間活動していきます。

今までヒューマンサービスセンターとして培われてきた学生の自主性を忘れることなく、支援室の学生コーディネーターとしての自覚と責任を持って活動していきます。関西学院大学のボランティアをもっと盛り上げていくべく、学生コーディネーター一同取り組んでいきます。どうぞ宜しくお願いいたします。

# 記錄事項

---

# 資料集

## ヒューマン・サービス支援室リーフレット

**ボランティア活動支援センター  
ヒューマン・サービス支援室**  
Volunteer Activity Support Center "Human Service" Support Office

2016年4月1日、関西学院大学におけるボランティアセンター「ヒューマン・サービス支援室」が稼働しました。支援室では、ボランティアをしたい学生に対してはボランティア情報や活動の紹介を、ボランティアをしている学生や学内団体に対しては更なる発展のサポートをします。

支援室では大学の「内」と「外」に向けて以下の役割を果たします。

**大学内に向けて**

**大学全体に対して**

- ボランティアに対する情報の提供（パンフレット作成・配布）

**ボランティアをしたい学生に対して**

- ボランティア情報の紹介（外部団体からのチラシなど）
- ボランティア活動についての相談（心構えや不安など）

**ボランティアをしている学生・団体に対して**

- 活動情報の発信のお手伝い（チラシの掲示など）
- 現在の活動についての相談（運営方法・外部資金情報など）
- 団体間の情報交換（フォーラムの開催など）

**大学外に向けて**

**ボランティアをしてほしい団体に対して**

- 活動情報の発信のお手伝い（チラシの掲示など）

※災害発生時において...

ボランティア活動支援センターにて緊急対応が決定した場合、適宜その対応に沿った活動を行います。



http://www.kwansei.ac.jp/c\_volunteer

ヒューマン・サービス支援室 検索

**アクセス**



〒662-8501  
兵庫県西宮市上ヶ原1番町1-155  
上ヶ原キャンパス 正門左手 門衛室隣

開室時間  
平日 8:50～16:50 (11:30～12:30は閉室)  
土日、祝日、夏季・冬季の休館期間は終日閉室

☎ 0798-54-6061  
✉ kg.hssso.info@kwansei.ac.jp

関西学院大学  
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

関西学院大学  
ボランティア活動支援センター  
ヒューマン・サービス  
**支 援 室**  
Volunteer Activity Support Center  
"Human Service" Support Office



**ボランティアをやってみよう!**

**ボランティアって?**

「特別な人がすることではありません」  
「ボランティア」と聞いて「特別な人がすること」と思う人は多いのではないのでしょうか？ボランティアという言葉は広く知られているにも関わらず、実際にしたことがある人の割合はそれほど高くはありません。しかし、どんな日常の活動（趣味など）でもボランティアになります。なので、決して「特別な人がすること」ではありません。趣味もみんさんに聞いていくことによって、誰かにとつての「ボランティア活動」になります。

**ボランティアしたいと思ったら**

まずは支援室にお越しください！  
支援室では様々なボランティア情報を提供しています。「何かしたいけど、何ができるかわからない」という場合でも、専従・学生コーディネーターがあなたに合ったボランティアを紹介します。

**ボランティアコーディネーションの流れ**



**学生コーディネーター**

**学生コーディネーターって?**

ボランティアを広げ、盛り上げる！  
学生コーディネーターは支援室の活動の中枢を担う存在です。学生へのボランティアに関する相談活動や学内外のボランティア団体の情報発信、他大学の学生スタッフとの交流などを支援室の専従コーディネーターや教職員と一緒に活動します。

**学生コーディネーターの活動**

年間を通して様々なイベントを実施！  
学生コーディネーターはボランティア活動の普及と活性化のため、様々なイベントを企画・実施しています。

**イベント一例**

- ボランティア EXPO  
学内ボランティアサークルを一覧に集めて行う一般学生へ向けた合同説明会
- ボランティアツアー  
一般学生を連れて外部団体のボランティア活動に参加するツアー

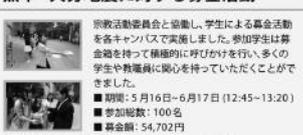
**学生コーディネーター募集しています!**

支援室までお問い合わせください  
ボランティアのコーディネーターをしてみたい！ボランティアのイベントを企画してみたい！など活動に興味がありましたら、ぜひ支援室までお問い合わせください。初心者でも研修などを通じて学生コーディネーターとしてのスキルを身につけることができます。

**災害支援ボランティア活動**

被災地支援のために、多くの学生たちから自分たちから何かできることはないかという声が上がりました。その多くの想いを受け、支援室では災害支援ボランティア活動を行っています。

**熊本・大分地震に対する募金活動**



- 期間：5月16日～6月17日 (12:45～13:20)
- 参加総数：100名
- 募金額：54,702円

**熊本地震現地ボランティア活動**

被害の大きかった益城町でボランティア活動を行いました。現地では、足湯や清掃活動、プレイパーク（子ども遊び場）などの活動を通して被災者の方々との交流をしました。

第1回	2016年7月1日～4日	参加学生：20名
第2回	2016年8月3日～7日	参加学生：18名
第3回	2016年11月11日～14日	参加学生：38名
第4回	2017年2月24日～28日	参加学生：24名



詳しくは支援室のホームページをご覧ください。

## 熊本地震現地ボランティア募集チラシ

### 第1回 熊本地震 現地ボランティア募集

- **日程** 7月1日(金)夕方～4日(月)朝
- **活動場所** 熊本県益城町など
- **活動内容** 避難所での越越しのお手伝い、足湯など
- **参加費** 3,000円(食費は別途自己負担)

※必要事項  
 1. 学生番号 2. 学部学科 3. 学年 4. 名前(ふりがな) 5. 電話番号  
 6. 応募理由(200字程度) 7. 参加する事前説明会の日程

○登録メールを送る際、件名を「熊本地震現地ボランティア応募」としてください。



＜応募方法＞  
 ○必ず自分の開学アドレス(@kwansei.ac.jp)で、ヒューマン・サービス支援室[kg.hssso.info@kwansei.ac.jp]まで、以下の必要事項をメール本文に書いて送ってください。開学アドレス以外のアドレスからの応募はできません。

＜応募条件＞  
 ○関西学院大学および聖和短期大学の学部学生および大学院生であること。  
 ○保証人の承諾を受けていること。  
 ※参加決定後、保証人の承諾書を出してもらいます。  
 ○事前説明会にいずれか1回参加できること。※すべて昼休みに実施  
 三田 : 6月22日(水)アカデミックモンス プレゼンテーションルーム1・2  
 聖和 : 6月23日(木)5号館514教室  
 上ヶ原: 6月24日(金)E号館302教室

● **応募期間** 6月14日(火)～20日(月)16:50

● **募集人数** 20名 ※応募者多数の場合は、抽選

＜お問い合わせ＞  
 関西学院大学 ヒューマン・サービス支援室  
 E-mail : kg.hssso.info@kwansei.ac.jp

### KIZUNA VOLUNTEER 絆ボランティア ～真発見～

活動内容

- ・ 避難所の手伝い、機内のエアウト変更、清掃
- ・ 子どもたちと遊ぶ
- ・ 足湯、被災者の方との交流

※足湯とは？

熱いお湯を流している被災者の方たちを具体的に支え、同時に、食料をしながらつづきやかに其を届けます。

参加学生の声

被災の方々の助けを人々に渡されたという経験が、新しい自分を見つけたような感じがします。  
 被災者の方々の助けを人々に渡されたという経験が、新しい自分を見つけたような感じがします。  
 被災者の方々の助けを人々に渡されたという経験が、新しい自分を見つけたような感じがします。

「あなにとっての真発見を熊本で!!!」



＜応募方法＞  
 ○必ず自分の開学アドレス(@kwansei.ac.jp)で、ヒューマン・サービス支援室[kg.hssso.info@kwansei.ac.jp]まで、以下の必要事項をメール本文に書いて送ってください。  
 ○登録メールを送る際、件名を「熊本地震現地ボランティア応募」として以下をお送りください。

※必要事項  
 1. 学生番号 2. 学部学科 3. 学年 4. 名前(ふりがな) 5. 電話番号(連絡がつかずやすいもの)  
 6. 応募理由(200字程度) 7. 参加する事前説明会の日程  
 開学アドレス以外のアドレスからの応募はできません。

＜応募条件＞  
 ○関西学院大学および聖和短期大学の学部学生および大学院生であること。  
 ○保証人の承諾を受けていること。 ※参加決定後、保証人の承諾書を出してもらいます。  
 ○事前説明会にいずれか1回参加できること。 ※すべて12:30～13:10に実施  
 聖和 : 7月27日(水) 5号館514教室  
 三田 : 7月28日(木) アカデミックモンス シアタールーム  
 上ヶ原: 7月29日(金) E号館302教室

● **活動期間** 8月3日(水)夕方～7日(日)朝

● **応募期間** 7月15日(金)～22日(金)16:50迄

● **募集人数** 20名 ※応募者多数の場合は抽選、教学webにて発表

● **参加費** 5000円(食事は別途自己負担)

● **発表** 7月23日(土)12:00

＜お問い合わせ＞ 関西学院大学 ヒューマン・サービス支援室 E-mail : kg.hssso.info@kwansei.ac.jp  
 チラシデザイン: 第1回 熊本地震現地ボランティア参加者

### 第1回 熊本地震現地ボランティア募集

### 第2回 熊本地震現地ボランティア募集

### 熊本地震 現地ボランティア募集

＜応募方法＞  
 ○必ず自分の開学アドレス(@kwansei.ac.jp)で、ヒューマン・サービス支援室[kg.hssso.info@kwansei.ac.jp]まで、以下の必要事項をメール本文に書いて送ってください。  
 ○登録メールを送る際、件名を「熊本地震現地ボランティア応募」として以下をお送りください。

※必要事項  
 1. 学生番号 2. 学部学科 3. 学年 4. 名前(ふりがな) 5. 電話番号(連絡がつかずやすいもの)  
 6. 応募理由(200字程度) 7. 参加する事前説明会の日程  
 開学アドレス以外のアドレスからの応募はできません。

＜応募条件＞  
 ○関西学院大学および聖和短期大学の学部学生および大学院生であること。  
 ○保証人の承諾を受けていること。  
 ※参加決定後、保証人の承諾書を出してもらいます。  
 ○事前説明会にいずれか1回参加できること。 ※すべて12:50～13:20に実施  
 上ヶ原: 10月31日(月) E号館202教室  
 聖和 : 11月1日(火) 5号館514教室  
 三田 : 11月2日(水) プレゼンテーションルーム①



● **活動期間** 11月11日(金)夕方～14日(月)朝

● **応募期間** 10月13日(木)～21日(金)16:50迄

● **参加費** 3000円(食事は別途自己負担)

● **募集人数** 20名 ※応募者多数の場合は抽選、教学webにて発表

● **発表** 10月25日(火)12:00

活動内容、その他の詳細は募集要項(教学web, 支援室HP)をご覧ください。

＜お問い合わせ＞ 関西学院大学 ヒューマン・サービス支援室 E-mail : kg.hssso.info@kwansei.ac.jp

### 第4回 熊本地震 現地ボランティア 2017.2/24(金)～28(火)

＜応募条件＞  
 ○関西学院大学および聖和短期大学の学部学生および大学院生であること。  
 ○保証人の承諾を受けていること。  
 ※参加決定後、保証人の承諾書を出してもらいます。  
 ○事前説明会に参加できること。以下の日程のいずれかに参加してください。

※必要事項  
 1. 学生番号 2. 学部学科 3. 学年 4. 名前(ふりがな) 5. 電話番号(連絡がつかずやすいもの)  
 6. 応募理由(200字程度)  
 7. 参加する事前説明会の日程

＜応募方法＞  
 ○必ず自分の開学アドレス(@kwansei.ac.jp)で、ヒューマン・サービス支援室[kg.hssso.info@kwansei.ac.jp]まで、以下の必要事項をメール本文に書いて送ってください。  
 ○登録メールを送る際、件名を「熊本地震現地ボランティア応募」として以下をお送りください。

※必要事項  
 1. 学生番号 2. 学部学科 3. 学年 4. 名前(ふりがな) 5. 電話番号(連絡がつかずやすいもの)  
 6. 応募理由(200字程度)  
 7. 参加する事前説明会の日程



上ヶ原  
2017年  
1月11日(水)  
12:50～13:20  
E号館202教室

西宮聖和  
2017年  
1月12日(木)  
12:50～13:20  
5号館514教室

神戸三田  
2017年  
1月13日(金)  
12:50～13:20  
アカデミックモンス  
プレゼンテーション  
ルーム①

＜事前打ち合わせ＞  
 ○事前打ち合わせにできる日無参加すること。  
 今回は活動について参加者と一斉に考えます。

○ **第1回打ち合わせ**  
 2017年1月25日(水)10:30～12:00  
 社会調査実習室(社会学部棟2F)

○ **第2回打ち合わせ**  
 2017年2月9日(木)10:30～12:00  
 社会調査実習室(社会学部棟2F)

○ **募集詳細**

- **活動期間** 2017年2月24日(金)～28日(火)
- **活動場所** 熊本県益城町 山田地区臨時避難所
- **参加費** 5,000円(食事は別途自己負担になります)
- **募集人数** 20名 ※応募者多数の場合は抽選
- **発表** 2016年12月20日(火)12:30 教学webにて発表
- **活動内容** ① 住居との交流 ② 参加学生での企画の実施(予定)

※その他の詳細は教学web掲載の募集要項をご覧ください。

● **募集期間** 2016.12/9(金)～16(金)16:50まで

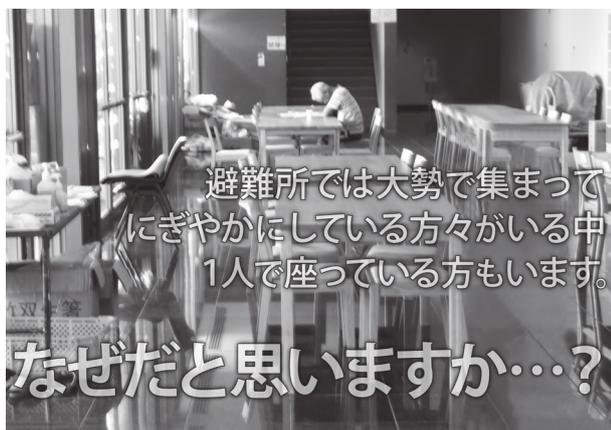
＜お問い合わせ＞ 関西学院大学 ヒューマン・サービス支援室 E-mail : kg.hssso.info@kwansei.ac.jp  
 関西学院大学 ヒューマン・サービス支援室 E-mail : kg.hssso.info@kwansei.ac.jp  
 これまでの応募者様へお礼の気持ちを込めて  
[http://www.kwansei.ac.jp/~volunteer/c\\_volunteer\\_m\\_001843.html](http://www.kwansei.ac.jp/~volunteer/c_volunteer_m_001843.html)

### 第3回 熊本地震現地ボランティア募集

### 第4回 熊本地震現地ボランティア募集



## 復興応援活動 学生考案ポスター



## 熊本地震現地ボランティア報告会チラシ



**とりま 聞こか、そして行こか!!**

～熊本地震現地ボランティア報告会～



7月・8月に有志の学生によって、熊本でボランティア活動を行いました。その活動報告を、以下の日時で行います。  
震災の報道が減ってきた今、皆さんはどこまで熊本のことを知っていますか？熊本の現状・参加した学生の想いを少しでも知ってもらい、皆さんが参加してみようと、一歩踏み出す機会になると嬉しいです！



★開催詳細

日時：10/28（金）17：00～18：30

場所：B号館104教室

事前申し込み不要



〈お問い合わせ先〉

関西学院大学ヒューマン・サービス支援室 E-mail：[kg.hssso.info@kwansei.ac.jp](mailto:kg.hssso.info@kwansei.ac.jp)

## 第3回 現地ボランティア活動チラシ

**こども遊び・ハンドアロマやります!**

11月12日(土)、13日(日)に関西学院大学の学生たちが子どもの遊び場・茶話会などイベントを開催します。ご都合がよろしければ、ぜひ遊びに来てください。

関西学院大学 ヒューマン・サービス支援室

---

**11月12日(土) 11時～15時** **場所 西集会所**

**こどもの遊び場** **茶話会**

大学生のお兄ちゃん・お姉ちゃんたちと一緒に思いっきり遊ぼう!

関西学院大学の学生たちとお茶を飲みながらお話しませんか?  
ハンドアロマ・足湯なども行います。

---

**11月13日(日) 11時～14時30分** **場所 北集会所**

**だご汁作り** **手芸 など...**

だご汁作りや手芸を通して、皆さんと交流をしようと思っています。茶話会やハンドアロマ・足湯も一緒にいきます。

ぜひお越しください!

---

**関西学院大学とは…?**

兵庫県西宮市にある時計台が有名な創立127年目を迎える大学です。西宮市は阪神タイガースの本拠地である甲子園球場や西宮神社があります。




**こども遊びとハンドアロマやります!**

11月12日(土)に関西学院大学の学生たちが子どもの遊び場・茶話会などのイベントを開催します。ご都合がよろしければ、ぜひ遊びに来てください。

関西学院大学 ヒューマン・サービス支援室

---

**11月12日(土) 11時～15時** **場所 C・E 集会所**

**こどもの遊び場** **茶話会**

大学生のお兄ちゃん・お姉ちゃんたちと一緒に思いっきり遊ぼう!

関西学院大学の学生たちとお茶を飲みながらお話しませんか?  
ハンドアロマ・足湯なども行います。

ぜひお越しください!

---

**関西学院大学とは…?**

兵庫県西宮市にある時計台が有名な創立127年目を迎える大学です。西宮市は阪神タイガースの本拠地である甲子園球場や西宮神社があります。




## 熊本地震現地ボランティア報告会チラシ

**第4回参加希望者は参加すべし!** **第3回熊本現地ボランティア報告会**

日時: 12月13日(火) 17:00～18:30

場所: 上ヶ原キャンパスB号館102教室

▼活動の様子はこちら



**8月** **11月**

**熊本地震はもう終わっていない!**

**プログラム**

- ・茶話会
- ・報告会
- ・現状
- ・活動内容
- ・心境の変化

●お問い合わせ: ヒューマンサービス支援室 (kg.hssv.info@kwansei.ac.jp)

上ヶ原キャンパス

**第4回参加希望者は参加すべし!** **第3回熊本現地ボランティア報告会**

日時: 12月15日(木) 12:50～13:20

場所: 神戸三田キャンパス アカデミックコモンズ オレンジゾーン

▼活動の様子はこちら



**8月** **11月**

**熊本地震はもう終わっていない!**

**プログラム**

- ・報告会
- ・現状
- ・活動内容
- ・心境の変化

●お問い合わせ: ヒューマンサービス支援室 (kg.hssv.info@kwansei.ac.jp)

神戸三田キャンパス

---



---

**ボランティア活動支援センター規程**


---

第1条 関西学院大学に関西学院大学ボランティア活動支援センター（以下「支援センター」という）を置く。

（目的）

第2条 支援センターは、ボランティア活動の支援に関する基本方針を策定する。

（業務）

第3条 支援センターは、前条の目的を達成するため、次の業務を行う。

- 1 本学のボランティア活動に関する施策の企画・立案
- 2 本学のボランティア活動に関する全学的方針の立案及びその方策の推進
- 3 その他、前条の目的を達成するための業務
- 2 前項の事業を推進するために、支援センターにヒューマン・サービス支援室を置く。

（構成）

第4条 支援センターに次の構成員を置く。

- 1 センター長
- 2 センター副長
- 3 センター委員 3名（西宮上ヶ原、西宮聖和、神戸三田各キャンパスから1名）

（センター長）

第5条 センター長は支援センターを代表し、第3条に規定する事項について統括する。

- 2 センター長は副学長の中から、学長が任命する。
- 3 センター長の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。なお、センター長が任期の途中で退任したとき、新任者の任期は前任者の任期の残存期間とする。

（センター副長）

第6条 センター副長はセンター長を補佐する。センター長に事故あるとき、又はセンター長が欠けたときは、その職務を代行する。

- 2 センター副長は本学専任教員の中からセンター長が推薦し、学長が任命する。
- 3 センター副長の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。なお、センター副長が任期の途中で退任したとき、新任者の任期は前任者の任期の残存期間とする。

（センター委員）

第7条 センター委員はセンター長及びセンター副長を補佐する。

2 センター委員は本学専任教員の中からセンター長が推薦し、学長が任命する。

3 センター委員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。なお、センター委員が任期の途中で退任したとき、新任者の任期は前任者の任期の残存期間とする。

（センター会議）

第8条 ボランティア活動の支援に関する基本方針を定め、それに基づいて、ボランティア活動を評価し管理するため、センター会議を置く。

2 センター会議は次の委員をもって構成する。

- 1 センター長
- 2 センター副長
- 3 センター委員
- 4 大学宗教主事
- 5 学長補佐 1名
- 6 学生活動支援機構長補佐 1名
- 7 大学事務統轄
- 8 学長室課長
- 9 学長が必要と認めた者 若干名

3 センター会議は、副学長が招集し、議長となる。

4 センター会議が必要と認めたときは、センター会議の議を経てセンター会議委員以外の者を出席させることができる。

第9条 センター会議は、次の事項を協議する。

- 1 本学のボランティア活動に関する施策の企画・立案
- 2 本学のボランティア活動に関する全学的方針の立案及びその方策の推進
- 3 支援センター予算・決算に関する事項
- 4 支援センター諸規程に関する事項
- 5 ヒューマン・サービス支援室の人事に関する事項

（規程の改廃）

第10条 この規程の改廃は、センター会議の議を経て大学評議会で決定する。

附 則

この規程は、2016年（平成28年）4月1日から施行する。

## ヒューマン・サービス支援室規程

第1条 この規程は、関西学院大学ボランティア活動支援センター（以下「支援センター」という）規程第3条第2項に基づき、ヒューマン・サービス支援室（以下「支援室」という）について定める。

（目的）

第2条 支援室は、ボランティア活動の支援に関する基本方針に基づき、学生等によるボランティア活動を支援し促進することを目的とする。

（業務）

第3条 支援室は、前条の目的を達成するため、次の業務を行う。

- 1 ボランティア活動への支援・助言
- 2 ボランティア活動に関する情報収集と提供
- 3 ボランティア活動への啓発
- 4 ボランティア活動に関する評価及びそれに伴う公表
- 5 ボランティア活動協議会の開催
- 6 その他、前条の目的を達成するための業務

（構成）

第4条 支援室に次の構成員を置く。

- 1 室長
- 2 副室長 3名
- 3 ボランティアコーディネータ
- 2 室長は、支援センター副長が兼ねる
- 3 副室長は、支援センター委員が兼ねる

（室長）

第5条 室長は支援室を代表し、第3条に規定する事項について統括する。

- 2 室長は本学専任教員の中から支援センター長が推薦し、学長が任命する。
- 3 室長の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。なお、室長が任期の途中で退任したとき、新任者の任期は前任者の任期の残存期間とする。

（副室長）

第6条 副室長は室長を補佐する。室長に事故あるとき、又は室長が欠けたときは、その職務を代行する。

- 2 副室長はボランティアに関する知識を有する本学専任教員とし、支援室長が推薦し、学長が任命する。
- 3 副室長の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。なお、副室長が任期の途中で退任したとき、新任者の任期は前任者の任期の残存期間とする。

（ボランティアコーディネータ）

第7条 ボランティアの全学的な推進と調整を行うため、

支援室にボランティアコーディネータを置く。

- 2 ボランティアコーディネータは室長が推薦した者を、支援センター長が任命・委嘱する。
- 3 ボランティアコーディネータの任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。なお、ボランティアコーディネータが任期の途中で退任したとき、新任者の任期は前任者の任期の残存期間とする。

（支援室運営委員会）

第8条 支援室の円滑な運営を図るため、支援室運営委員会（以下「運営委員会」という）を置く。

- 2 運営委員会は次の委員をもって構成する。
  - 1 室長
  - 2 副室長
  - 3 学長補佐 1名
  - 4 学生活動支援機構長補佐 1名
  - 5 学長室課長
- 3 運営委員会は、室長が招集し、議長となる。
- 4 運営委員会が必要と認めたときは、運営委員会の議を経て運営委員以外の者を出席させることができる。

第9条 運営委員会は、次の事項を企画・立案し、支援センター会議に提案する。

- 1 ボランティア活動への支援・助言
- 2 ボランティア活動に関する情報収集と提供
- 3 ボランティア活動への啓発
- 4 ボランティア活動に関する評価及びそれに伴う公表
- 5 ボランティア活動協議会の開催
- 6 その他、前条の目的を達成するための業務

（協議会）

第10条 室長は、関西学院大学で活動するボランティア団体の交流・協働を促進するため、室長、副室長による協議会を置き、開催する。

（規程の改廃）

第11条 この規程の改廃は、運営委員会の議を経て大学評議会で決定する。

附 則

この規程は、2016年（平成28年）4月1日から施行する。  
了解事項  
ボランティアコーディネータは期限付契約職員とする。

---



---

**2016年度 ボランティア活動支援センター名簿（所属などは当時）**


---

ボランティア活動支援センター長 伊藤 正一（国際学部教授・副学長）	学生活動支援機構長補佐 松尾 誠紀
ボランティア活動支援センター副長 関 嘉寛（社会学部教授）	大学事務統括 福中 修二
ボランティア活動支援センター委員 武田 丈（人間福祉学部教授）	学長室課長 川浦 良介
岩坂 二規（教育学部准教授）	学長室課長補佐 木村 己
西立野 修平（総合政策学部専任講師）	ボランティアコーディネーター 成安 有希
大学宗教主事 舟木 讓	
学長補佐 嶺重 淑	

---



---

**2016年度 ヒューマン・サービス支援室名簿（所属などは当時）**


---

ヒューマン・サービス支援室長 関 嘉寛（社会学部教授）	岩坂 二規（教育学部准教授） 西立野 修平（総合政策学部専任講師）
ヒューマン・サービス支援室副室長 武田 丈（人間福祉学部教授）	ボランティアコーディネーター 成安 有希

---



---

**2016年度 学生コーディネーター（26名）**


---

**4回生**

佐々木千暁（文）      竹本 和軌（文）  
 田中 里枝（文）      植松 亨典（社会）  
 羽豆 太洋（社会）    恵 美穂子（法）  
 永田 絢香（人間福祉）

**3回生**

後藤実紗子（文）      西野 真衣（文）  
 溝口 理香（文）  
 有村 美穂（商）      櫻井 早苗（商）  
 橋本亜香里（商）

**2回生**

梅宮 叶子（法）      南條 早紀（法）  
 辻 江里菜（商）  
 増田 御月（商）      山本 彩奈恵（商）  
 窪田 風子（人間福祉）

**1回生**

手納紗也香（文）      森本 敦史（文）  
 菅 夏海（社会）      藤木 皓平（経済）  
 前川 友吾（経済）      井上 七海（商）  
 上田 歩（商）

2016 年度  
関西学院大学ボランティア活動支援センター  
ヒューマン・サービス支援室 活動報告書  
2017 年 11 月 発行

---

関西学院大学ボランティア活動支援センター  
ヒューマン・サービス支援室

〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155

TEL: 0798-54-6061 FAX: 0798-54-6161

E-mail: kg.hssso.info@kwansei.ac.jp

URL: [https://www.kwansei.ac.jp/c\\_volunteer/](https://www.kwansei.ac.jp/c_volunteer/)